

**令和3年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～ アジア高等教育共同体(仮称)形成促進 ～**

[基本情報:タイプ]

(A①:CAプラス)

1. 大学名 <small>(○が代表申請大学)</small>	神戸大学			
2. 機関番号	<small>代表申請大学</small>	14501		
3. 主たる交流先の相手国	中国、韓国、タイ、ラオス			
4. 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな (氏名) 藤澤 正人	ふじさわ まさと	(所属・職名) 学長	
5. 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな (氏名) 藤澤 正人	ふじさわ まさと		
6. 事業責任者	ふりがな (氏名) 大村 直人	おおむら なおと	(所属・職名) 理事・副学長	
7. 事業名	【和文】 異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム			
	【英文】 Multidisciplinary Education Program for Careers on Risk Management Experts			
8. 取組学部・研究科等名 <small>(必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)</small>	<small>学問分野</small>	<input type="radio"/> 人社系 <input type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input type="radio"/> 全学 <input checked="" type="radio"/> その他		
	<small>実施対象 (学部・大学院)</small>	<input type="radio"/> 学部 <input checked="" type="radio"/> 大学院 <input type="radio"/> 学部及び大学院		
国際協力研究科、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、人文学研究科、国際文化学研究科、保健学研究科、医学研究科、都市安全研究センター、国際連携推進機構				

9. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	中華人民共和国	復旦大学	Fudan University	国際関係・公共事務学院
2	大韓民国	高麗大学校	Korea University	国際大学院
3	タイ王国	チュラロンコン大学	Chulalongkorn University	看護学研究科
4	ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学	National University of Laos	経済経営学研究科
5				
6				
7				
8				
9				
10				

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/index.html#4

12. 本事業経費							(単位:千円) ※千円未満は切り捨て
年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計	
事業規模 (総事業費)	14,755	16,485	16,878	16,878	17,688	82,684	
内訳	補助金申請額	13,895	14,125	9,465	9,465	10,275	57,225
	大学負担額	860	2,360	7,413	7,413	7,413	25,459

13. 本事業事務総括者部課の連絡先						
部課名				所在地		
責任者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)		
担当者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)		
	電話番号			緊急連絡先		
	e-mail(主)			e-mail(副)		

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容【1ページ以内】

① 交流プログラムの目的・概要等

【交流プログラムの目的及び概要等】

○目的：本プログラムは、神戸大学、復旦大学、高麗大学校が中核となり、チュラロンコン大学、ラオス国立大学と連携し、**異分野共創による共同教育プログラムを構築・発展させることにより、グローバルに活躍するリスク・マネジメント専門家を養成することを目的とする。**神戸大学は、「大学の世界展開力強化事業」を2011年度から復旦大学と高麗大学校と実施しており、3大学間で既に共同教育コンソーシアムを構築・発展させ、**博士課程前期課程の学生を中心にダブルディグリー、交換留学、短期研修等を通してリスク・マネジメント専門家の育成をしてきた。**これまでに構築した日中韓の共同教育コンソーシアムをASEANに拡大し、保健医療（チュラロンコン大学）、経済経営（ラオス国立大学）の分野でも共同教育を実施し、感染症や環境等の地球規模的課題に取り組むことができる高度人材育成を目指す。具体的には、政治、経済、経営、国際関係・安全保障、公共政策、人的資源、防災、国際保健（感染症を含む）の分野において、高い専門性と実践力・応用力が修得できる共同教育を提供することにより、グローバルに活躍するリスク・マネジメント高度専門人材・リーダーを育成する。

○概要：神戸大学・復旦大学・高麗大学校で構築した共同教育プログラムをチュラロンコン大学（ダブルディグリー、交換留学、短期研修）、ラオス国立大学（交換留学、短期研修）に発展させて、双方向交流を行い、単位の相互認定等の質の保証を伴ったプログラムを構築する。また、国際機関（世界銀行、WHO、ユネスコ、ユニセフ等）、政府機関、国際協力機構、医療機関、国際・国内NGOでの**インターンシップを一層充実させ、専門的知識に基づいた実践的スキルが修得できる共同教育を提供する。**また、これまで、神戸大学・復旦大学・高麗大学校で実施してきた**英語によるオンライン共同講義**をASEAN連携大学にも発展・拡張し、ASEAN大学の教員のみならず、リスク・マネジメントの実務者にも講師として参加してもらうことにより、より実践的な講義を提供する。連携大学が英語で提供するリスク・マネジメント関連科目を8単位取得した学生は、連携大学の研究科長が共同で署名したリスク・マネジメント修了証明書が取得できる。**モデルケースの一例として、ダブルディグリー・プログラムを希望する大学院生は、2年間で2つの修士号とリスク・マネジメント修了証明書を取得することができる。**

本プログラムは、**本学の教育・グローバル担当理事・副学長がメンバーとなる連携大学によるコンソーシアム運営委員会**によって運営される。神戸大学内では、大学院国際協力研究科長を委員長とし各連携研究科と研究センターの長によって形成される**プログラム委員会**によって全学的な協力体制の下でプログラムが運営され、本プロジェクトの主部局である国際協力研究科内の**キャンパス・アジア委員会**および**キャンパス・アジア室**が中心に学生の受入・派遣等を運営する。さらに、本プログラムの**外部評価委員会**によって質の保証を管理する。受入・派遣学生の支援については専門スタッフによる徹底した留学・就職支援体制、渡航前の事前教育の実施、留学前後のフォローアップ体制による教育支援、キャリア・セミナー、就職相談を実施する。留学に関わる充実した支援体制を今後も維持、発展させることで、学生が集中して就学できる環境を整備する。本プログラム修了生に対しては、これまでに構築してきた**本プログラム参加学生の同窓会ネットワーク**をASEAN大学の修了生を含めて発展させる。**本プログラムの目指すアウトカムは、リスク・マネジメント分野の事業を展開する国際機関、政府機関、グローバル企業、国際・国内NGO等で活躍する人材育成**である。

【養成する人材像】

本プログラムの目指すアウトカムは、リスク・マネジメント分野の事業を展開する国際機関、政府機関、官公庁、グローバル企業、保健医療機関、国際・国内NGO等で活躍する人材育成である。具体的には、国際機関、国際・国内NGO、医療機関、民間企業などのリスク・マネジメント分野における**実践的な知識とスキル**をもち、**語学力**はもちろんのこと、**プレゼンテーション能力、異文化理解力**を身につけた人材を育成する。このような人材を育成するために、神戸大学・復旦大学・高麗大学校ですでに構築した共同教育プログラムをASEAN諸国に拡大することでより充実した教育プログラムを構築する。具体的には、神戸大学・復旦大学・高麗大学校で過去10年に渡って実施してきた**ダブルディグリー・プログラム・交換留学・短期研修**に加えて、チュラロンコン大学（ダブルディグリー、交換留学、短期研修）、ラオス国立大学（交換留学、短期研修）に発展させて、双方向交流を行い、単位の相互認定等の質の保証を伴ったプログラムを構築する。また、国際機関（世界銀行、WHO、ユネスコ、ユニセフ等）、政府機関、国際協力機構、医療機関、国際・国内NGOでの**インターンシップを一層充実させ、専門的知識に基づいた実践的スキルが修得できる共同教育を提供する。**また、これまで、神戸大学・復旦大学・高麗大学校で実施してきた**英語によるオンライン共同講義**をASEAN連携大学にも発展・拡張し、ASEAN大学の教員のみならず、リスク・マネジメントの実務者にも講師として参加してもらうことにより、より実践的な講義を提供する。

連携大学が英語で提供するリスク・マネジメント関連科目を8単位取得した学生は、連携大学の研究科長が共同で署名したリスク・マネジメント修了証明書が取得できる。モデルケースの一例として、**ダブルディグリー・プログラムを希望する大学院生は、2年間で2つの修士号とリスク・マネジメント修了証明書を取得することができる。**こうした多国間における質の高い教育交流プログラムの実施によって、学生がリスク・マネジメントに関する実践的なスキルと知識に加えて異文化理解力を養成することを目指す。

【本事業で計画している交流学生数】各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位の取得の有無は問わない）

（単位：人）

2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
派遣	受入								
16	12	25	22	27	22	26	22	27	22

（大学名： 神戸大学 ）

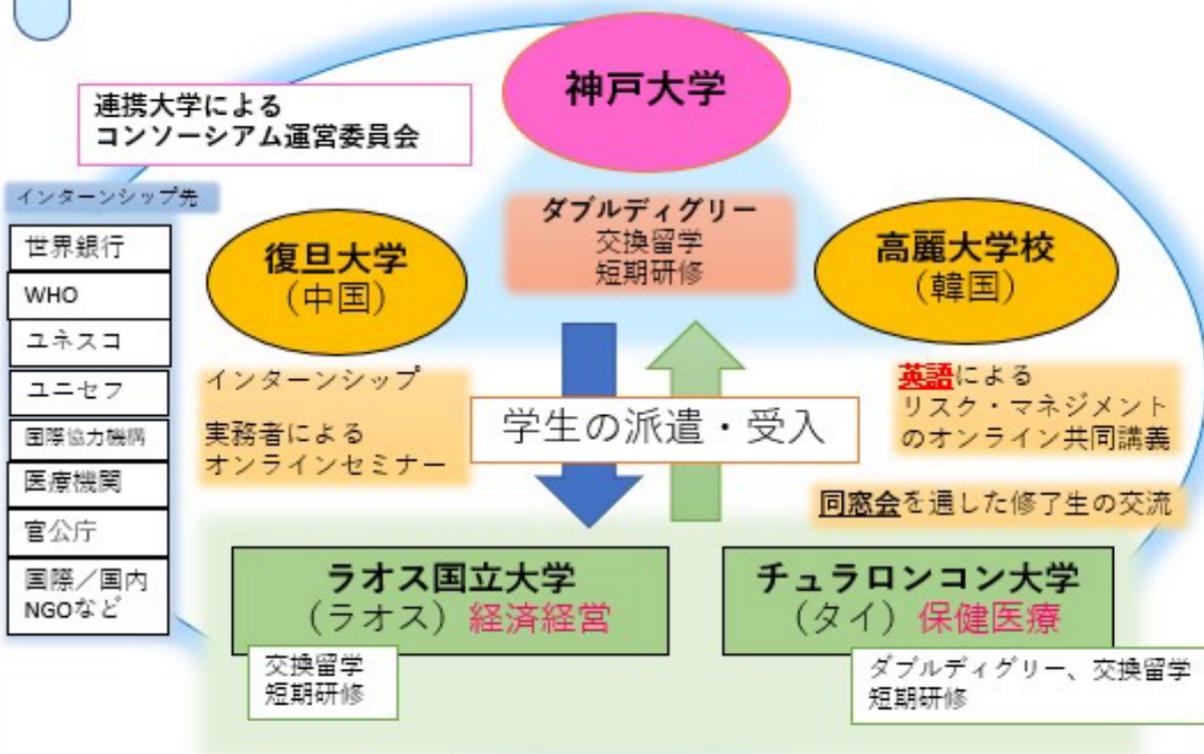
（タイプ A①：CAプラス ）

② 事業の概念図 【1ページ以内】

異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成 共同教育プログラム

本プロジェクトの目的と目指す人材育成像

- ▶ 神戸・復旦・高麗が中核となり、チュラロンコン、ラオス国立と連携して、教育連携プログラムを構築・発展させる
- ▶ 政治、経済、経営、国際関係・安全保障、公共政策、人的資源、防災、国際保健（感染症を含む）の分野において、高い専門性と実践力・応用力が修得できる教育を提供することにより、グローバルに活躍するリスク・マネジメント高度専門人材・リーダーを育成する



モデルケース【派遣】 *DDはダブルディグリーを意味する



専門スタッフによる徹底した留学・就職支援体制

- 渡航前の事前教育の実施
- 留学前後のフォローアップ体制による教育支援
- キャリアセミナー・就職相談

モデルケース【受入】



実践的スキルの修得

- 専門的知識に基づいた分析力・応用力
- 語学力（英語+α）
- 問題解決力
- 政策提案能力
- プレゼンテーション力など

アウトプット

2つの修士号とリスク・マネジメント修了証明書を取得した
リスク・マネジメント高度専門人材を輩出

アウトカム

リスク・マネジメント分野の事業を展開する国際機関、政府機関、官公庁、
グローバル企業、保健医療機関、国際/国内NGO、民間企業等で活躍

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①：CAプラス)

③ 国内大学等の連携図 【1ページ以内】

該当なし

(大学名： 神戸大学)

(タイプ A①：CAプラス)

④ 交流プログラムの内容 【4ページ以内】

【実績・準備状況】

○交流プログラムの枠組み

本プログラムを実施する神戸大学大学院国際協力研究科および復旦大学国際関係・公共事務学院、高麗大学校国際大学院とは10年間に渡りキャンパスアジア・プログラムを実施し、これまでに136人の学生を派遣し、88名の学生を受け入れてきた。神戸大学・復旦大学・高麗大学校を中核としたキャンパスアジア・プログラムに加えて、新たにチュラロンコン大学、ラオス国立大学と連携して共同教育プログラムを実施する。各大学は、それぞれ英語コースもしくは英語プログラムを有しており、構成する教員はほぼ全員が英語もしくは現地語による海外での豊富な教育研究経験を有している。また、これら5大学院は、これまでも世界各地から多くの留学生を受け入れてきた実績があり、英語による教育研究について十分な経験とサポート体制を有している。

本プログラムに参加した学生は、まず所属先の大学でプログラムの募集に応じた者から選抜され、派遣前に自らの研究計画に沿って単位を取得し、派遣先での単位互換による認定に備える。同時に、留学開始前から事前教育を受けることによって、語学力と研究計画を派遣先が求めるレベルまで高める。神戸大学では、すでにそのための制度や支援体制が整っている。「キャンパスアジア室」所属の教員を配置し、派遣先での研究計画をレベルアップさせるための自主ゼミナールをアレンジし、学生に対する助言指導を行うとともに、派遣先での本格的な学業の開始前に語学面を含む準備をサポートしてきた。

本プログラムは10年間に渡る神戸大学・復旦大学・高麗大学校の3大学で構築してきた学生交流をもとに、質保証を重視した共同教育プログラムの実施を継続させ、さらにASEAN諸国にも発展させる。過去10年において、神戸大学・復旦大学・高麗大学校の教職員の関係は極めて良好で、共同教育プログラムの実施や単位互換および修了書発行にかかる手続き等を共同で実施してきた。これまでの関係性およびノウハウをASEAN諸国にも発展させることで、質の高い短期および中長期的な交流プログラムを提供することにつながる。3大学共通で構築してきた教育プログラムの発展・拡大は、質の保証を重視した大学間交流促進の重要なモデルケースとして提示することが可能である。

○新型コロナウイルス感染症の影響に対する対処

本学では全学生を対象とした渡航前の危機管理研修を実施している。仮に新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣先国へ入国後に一定期間の隔離措置が講じられたとしても、学生および復旦大学・高麗大学校のキャンパスアジア・プログラム担当者との連絡体制を構築しているため、迅速に対応することが可能である。実際に第2期プログラムにおける派遣・受入の学生に対して、新型コロナウイルス感染症の影響による寮の退室や大学の対応について速やかに学生および交流大学と連絡を行い、学生のケアを最優先にしてきた。派遣学生に対しては定期的に月次報告書を提出することを求めており、月次報告書を通じて学生の状況を把握している。月次報告書の中で新型コロナウイルスの影響に対する精神的不安や就学上の心配に関する記述があれば、キャンパスアジア室所属の教職員がコンタクトをとり相談を受けるように体制を整備している。受入学生に対しても同様に定期的に状況確認を行っているため、新型コロナウイルスの影響に対する精神的不安や就学上の心配があれば、速やかに学生本人の相談対応を行うとともに教職員間で問題を共有する体制を構築している。

本プログラムで実施してきた共同教育プログラムについては、オンラインで実施してきた実績があり、すでに復旦大学・神戸大学・高麗大学校間で教育体制が構築されている。そのため新型コロナウイルス感染症の影響の有無に関係なく、共同教育プログラムを安定的に提供することが可能である。

○多様な教育プログラムの実施

本プログラムは、神戸大学・復旦大学・高麗大学校間のダブルディグリー・プログラムおよび交換留学による長期留学のみならず、チュラロンコン大学とラオス国立大学の短期研修とを組み合わせることで、日中韓およびASEAN諸国との教育連携を強化するものである。すでに日中韓の間で実施してきたオンライン教育の実践をASEAN諸国にも拡大することで、ASEAN諸国の学生に対しても多様な教育プログラムを提供することができる。また実渡航においても、神戸大学ではインターンシップの単位を取得することが可能となっている。神戸大学大学院国際協力研究科ではインターンシップ実施要項を定めており、インターンシップを本研究科の授業単位（2単位）として行うことができる。そのため、復旦大学・高麗大学校から本学へ派遣された学生がインターンシップ実施要項に則ってASEAN諸国でのインターンシップを実施することで、単位科目として履修することが可能となる。

【計画内容】

(i) 実渡航による交流

現行のダブルディグリー／交換留学プログラムに加えて、ASEAN諸国の大学院との交流へと拡大する。プログラム交流では、神戸大学、復旦大学、高麗大学校の3大学間におけるダブルディグリー／交換留学／短期研修に加えて、チュラロンコン大学、ラオス国立大学への学生派遣・受入を実施する。チュラロンコン大学はダブルディグリー、交換留学および短期研修、ラオス国立大学は交換留学および短期研修によって学生の交流を促進する。たとえば、神戸大学から高麗／復旦大学へダブルディグリー／交換留学で渡航し、さらにASEAN諸国の大学においても短期研修やインターンシップを実施する。学生は双方向的に派遣・受入を行う計画としている。

「リスク・マネジメント」科目修了のための講義科目やセミナーの開講実績を踏まえ、本プログラムでは、国内外の国際連合本部、世界銀行、ユネスコなどの国際機関でのインターンシップを含めて単位を取得し、各大学で定めるところに沿って学位を得て、将来の東アジア、また世界レベルで活躍する異分野共創によるリスク・マネジメント専門家を養成するカリキュラムの整備を目指すものである。

(ii) オンライン交流

神戸大学・復旦大学・高麗大学校間でオンライン共同教育「リスク・マネジメント」を継続して開講する。新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、国際医療、感染症に関する意識が高まっているなか、本学保健学研究科の教員との連携を強化し、共同講義において当該分野に関する授業も実施する計画である。さらに、2021年3月に発行された共同論文集を同講義の教科書として活用する。オンラインによるリスク・マネジメント論文コンテストも継続的に実施し、リスク概念の蓄積につなげる。

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流として、英語によるオンライン共同教育「リスク・マネジメント」の講義と短期研修による実渡航とを組み合わせた教育プログラムを実施する。既存の「リスク・マネジメント」は神戸大学・復旦大学・高麗大学校の3大学間の教員が共同で授業を開講している。これに加えて、「リスク・マネジメント2」を新たに開設する。「リスク・マネジメント2」では、国際医療・感染症分野の教員に加えて、世界銀行やユネスコなどの国際機関に従事する実務者、チュラロンコン大学、ラオス国立大学の教員と連携し、異分野共創による共同講義を実施する。新型コロナウイルスの感染症の影響により学生が実渡航できなかったとしても、オンラインによる共同教育「リスク・マネジメント」の講義を増設することで、これまでの教育の質を保ったまま学生に教育を提供することができる。実渡航によって実際に短期研修として集中講義を受けたり、インターンシップに参加したりすることで実践的なスキルを修得することを目指す。

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【4 ページ以内】

【実績・準備状況】

○質保証・成績評価と単位互換

復旦大学および高麗大学校は、それぞれ中国および韓国におけるトップレベルの大学であり、世界大学ランキングも上位に位置する。3大学間のこれまでの10年間の取り組みにおいて、コンソーシアム委員会で各大学の履修コースのカリキュラムの水準、成績・単位の認定基準等を協議し、その質の同等性を確保してきた。各大学の講義科目を履修した学生の成績については、各大学が自国の基準に基づき評価・単位認定を行い、最終的にプログラム運営委員会でのコース修了判定を経て、修了証明書を交付している。また、本プログラムの各年度の実績については、国内外の外部評価委員を招聘して外部評価委員会を各年度末に開催し、プログラムの実施状況と教育内容に関する評価を行っており、今後もこの体制を維持する計画である。

○ダブルディグリー・プログラムの実施と学位授与

第1期、第2期とダブルディグリー・プログラムの学生募集を継続して実施しており、安定した数の学生の派遣・受入を行ってきた。学位授与については、3大学間で締結されているダブルディグリー協定と各大学が定めるところに基づき、派遣元大学・派遣先大学それぞれに必要な単位を取得し、論文審査に合格した場合に、両大学における学位授与審査を経て、双方の学位が授与される。

○質の高い教育を提供するための教育体制の充実

神戸大学大学院国際協力研究科は、英語プログラムを有することに加えて、中韓両国およびASEANを研究対象とする教員が複数在籍していることから、受入学生のサポートについては当初より十分な体制を有している。本研究科に所属する教員のほとんどは海外大学での教育経験が豊富で、欧米諸国のトップレベルの大学から博士号を取得している。FDの実施は定期的に行っており、教育評価や効果的なオンライン教育の実施について毎回活発な意見が交わされている。海外交流大学については毎回説明会を実施し、海外相手大学の単位制度、履修順序、単位互換の手続き、アカデミックカレンダーの相違について周知している。交流するプログラム内容に応じたサポート体制をすでに構築しており、学生の履修に支障がないように実施してきた。その上で、3大学間に加えてASEANにおける大学の関係教職員や受入学生との意思疎通を円滑に行うために、特命助教（講義・学生指導に加えて、プログラム運営、および3大学間プラスASEANの実務的な調整・交渉を担当する）、事務補佐員（多数の学生を継続的に派遣・受入れることで増大する事務作業を教務・総務両面で補佐し、制度面・生活面でのサポートを行う）を雇用し、万全の支援体制を整備する。

○留学者募集説明会の複数回実施と「留学なんでも相談室」の常設

対面による留学者説明会を複数回実施し、新たな留学生層や長期留学者の掘り起こしをしてきた。コロナ禍においては、オンラインでの留学説明会を複数回にわたり実施した。実施のタイミングとしては、合格者オリエンテーション、入学オリエンテーション、公開授業期間などにおいて定期的に実施し、学生の留学への意欲を高めることを目的として実施した。さらに「留学なんでも相談室」を常設していることから、学生はいつでも本プログラムに関する相談をすることが可能である。

○ガイドラインに沿ったディグリーの設計および実施

本プログラムでは、すでに神戸大学・復旦大学・高麗大学校間でダブルディグリー・プログラムを実施しているものをASEAN諸国へと発展・拡大して交流を継続するものである。ダブルディグリー・プログラムの実施に当たっては、中央教育審議会大学分科会大学のグローバル化に関するワーキンググループ「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」を踏まえているとともに、本学・大学教育推進委員会、国際交流委員会において重ねて審査した上で、役員会決定事項としている。

【計画内容】

(i) 実渡航による交流

本プログラムでは、教育内容の質の保証を伴いつつ3大学プラスASEAN間の学術交流を拡大・進化させるため、成績評価における3大学間の連携体制を強化する。単位互換についてのノウハウは確立したが、成績評価については各大学の裁量に委ねられている側面は大きい。今後は、成績評価を行う各大学の教員間の連携を強化し、共同の授業運営や指導体制の構築など、質の保証を伴いながら交流の拡大と成績評価基準の統一を進める。また、シラバス可視化を推進する。各大学の英語版シラバスの可視化によって、情報公開へのフォーマットの共通化をさらに進め、3大学プラスASEAN共同の取り組みをより分かりやすく公表することを目指す。これを通じ、参加学生が出発前に派遣先大学の講義内容を把握することがより容易となり、スムーズな留學生活の開始とともに、成績評価や単位互換作業もより容易となることが期待される。

(ii) オンライン交流

本プログラムでは、ダブルディグリー学生および博士課程後期課程学生の指導について、所属大学と派遣先大学の指導教員間で研究指導に関する連携が不可欠である。そのため、これまで年1回日中韓3大学の教員と事務担当者が一堂に介して行ってきた実務者会議を、教員間の連絡会議に改編し、ダブルディグリー学生、博士課程後期課程学生の共同指導のための意見交換の機会とする。連絡会議は、年2～3回を目処に随時開催することとするが、必要に応じてインターネット等を活用した会議を積極的に開催することで、意見交流の機会を増やす。国際交流経験者を増加させるために、オンラインによる共同教育プログラム「リスク・マネジメント」の授業を3大学プラスASEANの教員が連携して開催する。キャンパスアジア・プログラムの参加学生以外にも当該科目を開講することで、新たな留学生層や長期交流者の掘り起こしにつなげる。当該科目は、「リスク・マネジメント1」において、既存の3大学間（神戸・復旦・高麗）で開講し、「リスク・マネジメント2」において、国際医療・感染症分野の教員に加えて、世界銀行やユネスコなどの国際機関に従事する実務者、チュラロンコン大学、ラオス国立大学の教員と連携し、異分野共創による共同講義を実施する。国境を越えた教員間で、複数国間・異分野間における共同教育を実施する。

(大学名： 神戸大学)

(タイプ A①：CAプラス)

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流として、英語によるオンライン共同教育「リスク・マネジメント」の講義と短期研修やインターンシップによる実渡航とを組み合わせた教育プログラムを実施する。既存のオンライン共同教育である「リスク・マネジメント」は、神戸大学・高麗大学校・復旦大学の3大学間の教員が共同で授業を開催している。これに加えて、「リスク・マネジメント2」を新たに開設する。「リスク・マネジメント2」では、国際医療・感染症分野の教員に加えて、世界銀行やユネスコなどの国際機関に従事する実務者、チュラロンコン大学、ラオス国立大学の教員と連携し、異分野共創による共同講義を実施する。オンライン共同教育を実施することで、3大学プラスASEANにおいて成績評価についてルーブリックを用いて評点のつけ方を管理し、教育内容および成績評価の方法をシラバスにおいて明示することで透明性・客観性を保つ。

新型コロナウイルスの感染症の影響により学生が実渡航できなかったとしても、オンラインによる共同教育「リスク・マネジメント」の講義を増設することで、これまでの教育の質を保ったまま学生に教育を提供することができる。また、実渡航による交流が可能となった場合でも、当該科目はリスク・マネジメント修了科目の必修科目として交流大学間で設定しているため、学生たちは引き続き受講することが可能である。実渡航によるインターンシップについては神戸大学大学院国際協力研究科にて単位として履修することが可能である。ASEAN諸国へのインターンシップの機会を創出することで、日中韓の学生にインターンシップ科目の履修を促すとともに既存のオンライン共同教育プログラム「リスク・マネジメント」も併せて履修することで、ハイブリッド型の交流を構築する。

(大学名： 神戸大学)

(タイプ A①) : CAプラス)

達成目標 【①～④合わせて7ページ以内】
<p>① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について</p> <p>○ 将来の日・アジア関係を見据え、各国間における連携強化に資する観点から、社会的・文化的・経済的認識に根ざした、両国間の架け橋となる高度専門人材やリーダーの育成を実施する質の高い教育連携プログラムとなっているか。</p>
<p>(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2025年度まで)</p> <p>上に述べたように、本プログラムは「異分野共創によるグローバルに活躍するリスク・マネジメント専門家」の養成を目指すものである。政治、経済、経営、国際関係・安全保障、公共政策、人的資源、防災、国際保健（感染症を含む）の分野における諸問題を「リスク」という観点から分析し、最適な対応を提示する（マネジメント）ための専門的な知識とスキルを持った人材を幅広く養成することを、本プログラムでは目指している。社会的・文化的・経済的にもリスクは存在する。そのリスクについて様々な分野から考察し、リスク・マネジメントの専門家としての知識と実践力を身に付けた人材を輩出することを目指す。</p> <p>具体的には、本プログラムによって、2年で2つの修士号を修得するとともに、リスク・マネジメント修了証明書を取得したリスク・マネジメント高度専門家を輩出する。日中韓ASEANの東アジア諸国の言語・社会に対する理解と、問題分析および政策策定を主導し、それぞれの「リスク」の現場においてグローバルに活躍しうる経験とスキルを身につけた人材を育成し、リスク・マネジメント分野の事業を展開する国際機関、政府機関、官公庁、グローバル企業、保健医療機関、国際／国内NGO、民間企業等で活躍できる人材こそ、本プログラムが目指す人材像である。</p>
<p>(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)</p> <p>○ 学位取得者の輩出 2022年度までに、本プログラムにおいて5人のダブルディグリー取得者を輩出する。</p> <p>○ 学位取得者の進路 博士課程前期課程修了者の中から、国際機関、政府機関、官公庁、グローバル企業、保健医療機関、国際／国内NGO、民間企業等においてリスク・マネジメント専門家として活躍する人材を輩出する。</p>
<p>② 養成しようとするグローバル人材像について</p> <p>○ 養成しようとする人材像が明確に設定されているか。（これを踏まえたアウトプット及びアウトカムが設定されているか）</p>
<p>(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2025年度まで)</p> <p>本プログラムは「異分野共創によるグローバルに活躍するリスク・マネジメント専門家」の養成を目指すものである。政治、経済、経営、国際関係・安全保障、公共政策、人的資源、防災、国際保健（感染症を含む）の分野における諸問題を「リスク」という観点から分析し、最適な対応を提示する（マネジメント）ための専門的な知識とスキルを持った人材を幅広く養成することを、本プログラムでは目指している。</p> <p>本プログラムによって、2年で2つの修士号を修得するとともに、リスク・マネジメント修了証明書を取得したリスク・マネジメント高度専門家を輩出する。日中韓ASEANの東アジア諸国の言語・社会に対する理解と、問題分析および政策策定を主導し、それぞれの「リスク」の現場においてグローバルに活躍しうる経験とスキルを身につけた人材を育成し、リスク・マネジメント分野の事業を展開する国際機関、政府機関、官公庁、グローバル企業、保健医療機関、国際／国内NGO、民間企業等で活躍できる人材こそ、本プログラムが目指す人材像である。</p>
<p>(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)</p> <p>○ 学位取得者の輩出 2022年度までに、本プログラムにおいて5人のダブルディグリー取得者を輩出する。</p> <p>○ 学位取得者の進路 博士課程前期課程修了者の中から、国際機関、政府機関、官公庁、グローバル企業、保健医療機関、国際／国内NGO、民間企業等においてリスク・マネジメント専門家として活躍する人材を輩出する。</p>

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①：CAプラス)

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

	外国語力基準	達成目標	
		中間評価まで (事業開始～ 2022年度まで)	事後評価まで (事業開始～ 2025年度まで)
	【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数	41人（延べ数）	121人（延べ数）
1	TOEFL iBT 80	41人（延べ数）	121人（延べ数）
2	中国語検定 4級	10人（延べ数）	25人（延べ数）
3	韓国語能力試験 2級	10人（延べ数）	25人（延べ数）

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

英語：原則としてダブルディグリーの取得者については達成する基準を満たすものとして算出した。
 中国語：原則として中国の大学で学位を取得する者は達成可能として設定した。
 韓国語：原則として韓国の大学で学位を取得する者は達成可能として設定した。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2025年度まで）

英語については、派遣時点で相手方の大学で講義を履修し、学位を取得する能力を身につける。中国語、韓国語については、現地到着後に派遣先の大学の提供する語学の授業あるいは附属語学学校を利用して語学力を身につける。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2022年度まで）

英語については、派遣時点で相手方の大学で講義を履修し、学位を取得する能力を身につける。中国語、韓国語については、現地到着後に派遣先の大学の提供する語学の授業あるいは語学学校を利用して語学力を身につける。

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①：CAプラス)

<p>③-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について</p> <p>(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）</p> <p>ダブルディグリー・プログラムにおいて、英語で修士論文を執筆し、学位を取得する能力を身につける。2025年度までに39人輩出する。英語で授業を履修し、単位を取得した学生全員が中断することなく留学を終了する。</p>
<p>(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）</p> <p>ダブルディグリー・プログラムにおいて、英語で修士論文を執筆し、学位を取得する能力を身につける。2022年度までに5人輩出する。英語で授業を履修し、単位を取得した学生全員が中断することなく留学を終了する。</p>
<p>④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について</p> <p>(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）</p> <p>1. シラバスの可視化の推進 英語版シラバスの公開は、各大学の情報共有と一体感のあるプログラム運営およびプログラム内容の広報も重要であるため、情報公開へのフォーマットの共通化を推進し、3大学プラスASEANによる共同の取り組みをより分かりやすい形で公表する。</p> <p>2. 日中韓3カ国プラスASEAN間の交換留学および短期研修 本プログラムでは、日韓あるいは日中・中韓の2カ国間の留学に加えて、ASEAN諸国を含めて留学する形を制度化する。チュラロンコン大学とはすでに神戸大学大学院保健学研究科との学術交流協定が締結されており、ダブルディグリー・プログラム、交換留学、短期研修が可能である。ラオス国立大学とはこれまでにインターンシップや短期研修の実績があるため、これらを単位化および制度化につなげて短期研修と交換留学の学術交流協定を締結する。</p> <p>3. 教員間の共同指導体制の強化 これまで年1回3大学の教員と事務担当者が集まって開催してきた実務者会議を、教員間の連絡会議に改編し、年2～3回を目処に随時開催することにより、ダブルディグリー学生、博士課程後期課程学生の共同指導のための意見交換の機会とする。</p>
<p>(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）</p> <p>上記の3点についての制度を確立した上で、神戸大学・復旦大学・高麗大学校およびASEAN諸国間における交換留学、短期研修を実施し、学生の派遣および受入れを開始する。</p>

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①：CAプラス)

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1ページ以内】

現状(2020年5月1日現在)※1

(単位:人)

2

(i) 日本人学生数の達成目標

単位:延べ人数

事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)	121
中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)	41

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス(事業計画全体、中間評価までの双方について)

単位:人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生	6	8	9	8	9	40
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	10	10	10	10	50
実渡航とオンライン受講を行う学生	0	7	8	8	8	31
合計人数	16	25	27	26	27	121

(a) 実渡航による交流

神戸大学、復旦大学、高麗大学の3大学間におけるダブルディグリー/交換留学の学生を派遣する。また、短期研修やインターンシップとしても実渡航によって学生交流を進める。さらに、チュラロンコン大学、ラオス国立大学への学生の派遣を実施する。チュラロンコン大学はダブルディグリー、交換留学および短期研修、ラオス国立大学は交換留学・短期研修によって学生の交流を促進する。たとえば、神戸大学から高麗/復旦大学へダブルディグリー/交換留学で渡航し、さらにASEAN諸国の大学においても短期研修やインターンシップを実施する。学生は双方向的に派遣・受入を行う計画としている。

「リスク・マネジメント」科目修了のための講義科目やセミナーの開講実績を踏まえ、本プログラムでは、国内外の国際連合本部、世界銀行、ユネスコ等の国際機関でのインターンシップを含めて単位を取得し、各大学で定めるところに沿って学位を得て、将来の東アジア、また世界レベルで活躍する異分野共創によるリスク・マネジメント専門家を養成するカリキュラムの整備を目指すものである。

(b) オンライン交流

本プログラムの交流大学として提携している大学とは、すべての学生に「リスク・マネジメント1」の単位取得を目的とした履修を可能とする。また、「リスク・マネジメント2」によって国際機関の実務者を講師として迎え、集中講義による履修も可能とする。オンライン共同教育プログラムの内容を多様化させ、より多くの実務者・研究者による講義を構築することで、充実したオンライン教育プログラムを提供する。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

共同オンライン教育「リスク・マネジメント1」による講義の実施と、インターンシップおよびフィールドトリップの制度化と単位化を推進する。リスク・マネジメントについての深い理解を得るためには、大学での教育と同時に現場での取り組みについて知ることが重要である。そのため、従来から実施されてきたインターンシップやフィールドトリップについても、コンソーシアム内で発展的に制度化し、単位化することを目指す。

※1 現状は、事業の取組単位(全学、学部等)における2020年5月1日現在の人数。

(大学名: 神戸大学) (タイプ A①: CAプラス)

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】

現状（2020年5月1日現在）※1

（単位：人）

3

(i) 外国人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	100
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	34

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生	2	9	8	9	8	36
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	10	10	10	10	50
実渡航とオンライン受講を行う学生	0	3	4	3	4	14
合計人数	12	22	22	22	22	100

(a) 実渡航による交流

神戸大学、復旦大学、高麗大学校の3大学間におけるダブルディグリー／交換留学の学生を受け入れる。また、短期研修やインターンシップとしても実渡航によって学生交流を進める。また、チュラロンコン大学、ラオス国立大学への学生派遣・受入を実施する。チュラロンコン大学はダブルディグリー、交換留学および短期研修、ラオス国立大学は交換留学・短期研修によって学生の交流を促進する。たとえば、高麗／復旦大学から神戸大学にダブルディグリー／交換留学で渡航し、さらにASEAN諸国の大学においても短期研修やインターンシップを実施する。学生は双方向的に派遣・受入を行う計画としている。

「リスク・マネジメント」科目修了のための講義科目やセミナーの開講実績を踏まえ、本プログラムでは、国内外の国際連合本部、世界銀行、ユネスコなどの国際機関でのインターンシップを含めて単位を取得し、各大学で定めるところに沿って学位を得て、将来の東アジア、また世界レベルで活躍する異分野共創によるリスク・マネジメント専門家を養成するカリキュラムの整備を目指すものである。

(b) オンラインによる交流

本プログラムの交流大学として提携している大学とは、すべての学生に「リスク・マネジメント1」の単位取得を目的とした履修を可能とする。また、「リスク・マネジメント2」によって国際機関の実務者を講師として迎え、集中講義による履修も可能とする。オンライン共同教育プログラムの内容を多様化させ、より多くの実務者・研究者による講義を構築することで、充実したオンライン教育プログラムを提供する。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

共同オンライン教育「リスク・マネジメント1」による講義の実施と、インターンシップおよびフィールドトリップの制度化と単位化を推進する。リスク・マネジメントについての深い理解を得るためには、大学での教育と同時に現場での取り組みについて知ることが重要である。そのため、従来から実施されてきたインターンシップやフィールドトリップについても、コンソーシアム内で発展的に制度化し、単位化することを目指す。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

（大学名： 神戸大学 ） （タイプ A①：CAプラス）

⑦ 交流学生数について（2021年度は事業開始以後の人数） （単位：人）

(i) 本事業で計画している交流学生数

中国側大学	韓国側大学	ASEAN側大学
84	88	49

(i) -1: プログラム全体の派遣・受入交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数 (交流期間、単位取得の有無等の 内訳は (iii) 表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	16	12	25	22	27	22	26	22	27	22	121	100
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	6	2	8	9	9	8	8	9	9	8	40	36
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	50	50
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	7	3	8	4	8	3	8	4	31	14

(i) -2: 日中韓の三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳

三カ国共通の財政支援対象 となる交流学生数		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入								
		16	12	25	22	27	22	26	22	27	22	121	100
交流相手国 中国	実渡航	2	0	4	4	4	4	4	4	4	4	18	16
	オンラ イン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	25
	ハイブ リッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国	実渡航	4	2	4	4	4	4	4	4	4	4	20	18
	オンラ イン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	25
	ハイブ リッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	2	2
	オンラ イン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブ リッド	0	0	5	1	6	2	6	1	6	2	23	6
交流相手国 中国 及び 韓国	実渡航											0	0
	オンラ イン											0	0
	ハイブ リッド											0	0
交流相手国 中国 及び ASEAN	実渡航											0	0
	オンラ イン											0	0
	ハイブ リッド			1	1	1	1	1	1	1	1	4	4
交流相手国 韓国 及び ASEAN	実渡航											0	0
	オンラ イン											0	0
	ハイブ リッド			1	1	1	1	1	1	1	1	4	4
交流相手国 中国、 韓国及び ASEAN	実渡航											0	0
	オンラ イン											0	0
	ハイブ リッド											0	0
自己負担または大学負担等 による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											0	0
	オンラ イン											0	0
	ハイブ リッド											0	0

(大学名: 神戸大学) (タイプ A①: CAプラス)

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流

A	実渡航
B	オンライン
C	ハイブリッド

1. 【代表申請大学】

大学名 神戸大学

交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
復旦大学	派遣	③	2	5		4	5		4	5		4	5		4	5		43
復旦大学	受入	③	0	5		4	5		4	5		4	5		4	5		41
高麗大学校	派遣	③	4	5		4	5		4	5		4	5		4	5		45
高麗大学校	受入	③	2	5		4	5		4	5		4	5		4	5		43
チュラロンコン大学	派遣	③						1	1		2			2	1		2	9
チュラロンコン大学	受入	③				1					1	1					1	4
ラオス国立大学	派遣	②						4			4			4			4	16
ラオス国立大学	受入	③						1			1			1			1	4
復旦大学ーラオス国立大学	派遣	③						1			1			1			1	4
復旦大学ーラオス国立大学	受入	③						1			1			1			1	4
高麗大学校ーラオス国立大学	派遣	③						1			1			1			1	4
高麗大学校ーラオス国立大学	受入	③						1			1			1			1	4

221

2. 【国内連携大学等】

大学名

交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
	派遣																	0
	受入																	0
	派遣																	0
	受入																	0

(大学名: 神戸大学) (タイプ A①: CAプラス)

(iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数	16	25	27	26	27	121
【交流形態別 内訳】						
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	4	4	4	4	16
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド		4	4	4	4	16
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	16	21	23	22	23	105
実渡航	6	8	9	8	9	40
オンライン	10	10	10	10	10	50
ハイブリッド	0	3	4	4	4	15
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①：CAプラス)

【外国人学生の受入】	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数	12	22	22	22	22	100
【交流形態別 内訳】						
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	12	22	22	22	22	100
実渡航	2	9	8	9	8	36
オンライン	10	10	10	10	10	50
ハイブリッド	0	3	4	3	4	14
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①：CAプラス)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣（日本⇒中国、韓国、ASEAN）【計画】

年度	交流期間	派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学生数	(内訳)		
								実渡航	オンライン	ハイブリッド
2021	2021.8 ~ 2022.2	神戸大学	高麗大学校	韓国	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2021.8 ~ 2022.8	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5	5		
	2021.10 ~ 2022.2	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
2022	2022.8 ~ 2023.8	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	6		
	2022.8 ~ 2023.12	神戸大学	復旦大学	中国	交換留学(修士)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2022.8 ~ 2023.12 2023.1 ~ 2023.5	神戸大学	高麗大学校	韓国	交換留学(修士)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2022.8 ~ 2023.8 2023.8 ~ 2023.8	神戸大学	高麗-ラオス	韓国・ラオス	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2022.8 ~ 2023.8 2023.8 ~ 2023.8	神戸大学	復旦-ラオス	中国・ラオス	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2022.10 ~ 2023.2	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
	2022.8 ~ 2022.8	神戸大学	ラオス国立大学	ラオス	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	4			4
	2022.9 ~ 2022.12	神戸大学	チュラロンコン大学	タイ	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.8 ~ 2024.8	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	6		
	2023.8 ~ 2023.12	神戸大学	復旦大学	中国	交換留学(修士)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.8 ~ 2023.12 2024.1 ~ 2024.5	神戸大学	高麗大学校	韓国	交換留学(修士)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.8 ~ 2024.8 2024.8 ~ 2024.8	神戸大学	高麗-ラオス	韓国・ラオス	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2023.8 ~ 2024.8 2024.8 ~ 2024.8	神戸大学	復旦-ラオス	中国・ラオス	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2023.10 ~ 2024.2	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
	2023.8 ~ 2023.8	神戸大学	ラオス国立大学	ラオス	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	4			4
	2023.8 ~ 2024.8	神戸大学	チュラロンコン大学	タイ	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.9 ~ 2023.12	神戸大学	チュラロンコン大学	タイ	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	2			2
2024	2024.8 ~ 2025.8	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	6		
	2024.8 ~ 2024.12	神戸大学	復旦大学	中国	交換留学(修士)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2024.8 ~ 2025.2	神戸大学	高麗大学校	韓国	交換留学(修士)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2024.8 ~ 2025.8 2025.8 ~ 2025.8	神戸大学	高麗-ラオス	韓国・ラオス	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2024.8 ~ 2025.8 2025.8 ~ 2025.8	神戸大学	復旦-ラオス	中国・ラオス	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2024.10 ~ 2025.2	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
	2024.8 ~ 2024.8	神戸大学	ラオス国立大学	ラオス	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	4			4
	2024.9 ~ 2024.12	神戸大学	チュラロンコン大学	タイ	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	2			2
2025	2025.8 ~ 2026.8	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	6		
	2025.8 ~ 2025.12	神戸大学	復旦大学	中国	交換留学(修士)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2025.8 ~ 2026.2	神戸大学	高麗大学校	韓国	交換留学(修士)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2025.8 ~ 2026.8 2026.8 ~ 2026.8	神戸大学	高麗-ラオス	韓国・ラオス	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2025.8 ~ 2026.8 2026.8 ~ 2026.8	神戸大学	復旦-ラオス	中国・ラオス	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2025.10 ~ 2026.2	神戸大学	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
	2025.8 ~ 2025.8	神戸大学	ラオス国立大学	ラオス	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	4			4
	2025.8 ~ 2026.8	神戸大学	チュラロンコン大学	タイ	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2025.9 ~ 2025.12	神戸大学	チュラロンコン大学	タイ	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	2			2

121 40 50 31

②外国人学生の受入（中国、韓国、ASEAN⇒日本）【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学生数	(内訳)			
									実渡航	オンライン	ハイブリッド	
2021	2021.8	～	2021.12	高麗大学校	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	2	2		
	2021.8	～	2022.2	復旦大学 又は 高麗大学校	日本	神戸大学	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
2022	2022.8	～	2023.8	復旦大学 又は 高麗大学校	日本	神戸大学	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	6		
	2022.8	～	2023.2	高麗大学校	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2022.8	～	2023.2	復旦大学	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2022.8	～	2023.8	高麗大学校	日本・ラオス	神戸大学	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2022.8	～	2023.8	復旦大学	中国・ラオス	神戸大学	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2022.10	～	2023.2	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	神戸大学	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
	2022.8	～	2023.2	ラオス国立大学	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2022.8		2022.12	チュラロンコン大学	日本	神戸大学	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
2023	2023.8	～	2024.8	復旦大学 又は 高麗大学校	日本	神戸大学	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	6		
	2023.8	～	2024.2	高麗大学校	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.8	～	2024.2	復旦大学	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.8	～	2024.8	高麗大学校	日本・ラオス	神戸大学	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2023.8	～	2024.8	復旦大学	中国・ラオス	神戸大学	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2023.10	～	2024.2	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	神戸大学	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
	2023.8	～	2024.2	ラオス国立大学	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023.8		2023.12	チュラロンコン大学	日本	神戸大学	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1	
2024	2024.8	～	2025.8	復旦大学 又は 高麗大学校	日本	神戸大学	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	6		
	2024.8	～	2025.2	高麗大学校	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2024.8	～	2025.2	復旦大学	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2024.8	～	2025.8	高麗大学校	日本・ラオス	神戸大学	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2024.8	～	2025.8	復旦大学	中国・ラオス	神戸大学	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2024.10	～	2025.2	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	神戸大学	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
	2024.8	～	2025.2	ラオス国立大学	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2024.8		2024.12	チュラロンコン大学	日本	神戸大学	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
2025	2025.8	～	2026.8	復旦大学 又は 高麗大学校	日本	神戸大学	ダブルディグリー留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	6		
	2025.8	～	2026.2	高麗大学校	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2025.8	～	2026.2	復旦大学	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2025.8	～	2026.8	高麗大学校	日本・ラオス	神戸大学	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2025.8	～	2026.8	復旦大学	中国・ラオス	神戸大学	ダブルディグリー留学および短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2025.10	～	2026.2	復旦大学 又は 高麗大学校	中国・韓国	神戸大学	オンライン共同教育プログラムの実施	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	10		10	
	2025.8	～	2026.2	ラオス国立大学	日本	神戸大学	交換留学	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
	2025.8		2025.12	チュラロンコン大学	日本	神戸大学	短期研修	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	1			1

100 36 50 14

(大学名: 神戸大学) (タイプ A①: CAプラス)

(v) 宿舎の提供について

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供予定の学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	6	2	15	12	17	12	16	12	17	12	71	50

(vi) 同窓会ネットワークへの参加者数について ※タイプA①・A②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	8	27	29	28	29	121

【参加者を増加させるための取組】

第2モードの期間において、すでに3カ国の参加学生の同窓会組織を結成している。FacebookなどのSNSを活用してネットワークの形成を進め、担当教職員の中韓両国への訪問時などにプログラム参加・参加予定学生が交流する機会を活用する。また毎年国際シンポジウム開催時にも、参加学生と修了生が親睦を深めるイベントを独自に開催してきた実績があるので、これまでのノウハウを継続して同窓会への参加者を増加させる計画である。

(vii) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

※第2モードまでの実績と比較して発展的な内容にするために必要な任意指標を適宜設定してください

【現状分析及び目標設定】

第2モードの期間、毎年開催した国際シンポジウムでは、修了生の成果発表の場として学生セッションを設け、修了生の学習効果を高めることにつなげた。また、2017年度に本プログラム参加者（修了生、参加学生）の同窓会が正式に設立され、修了生と在学学生、また新入生間のネットワークの構築を進めた。同窓会では、各大学の就職支援情報や各種イベントの周知を行い、参加学生と修了生が親睦を深めるイベントを国際シンポジウムの際に学生らが自主的に開催した。

(設定指標)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
(指標1) 同窓会への新規加入者の増加	8	27	29	28	29	121
(指標2) 同窓会による修了生と参加学生との交流	10	10	10	10	10	50
(指標3) 同窓会のオンライン実施	10	10	10	10	10	50
(指標4)						0
(指標5)						0

【計画内容】

毎年開催される国際シンポジウムにおいて、同窓会を実施すること、学生が同窓会に参加できるように工夫する。また、現役の参加学生と修了生との交流をオンラインで実施することで、就職支援や留学相談に関する学生間の意見交流を促す計画である。すでに卒業して就職している本プログラム修了生にとっては、オンラインによる同窓会を実施することで、同窓会に参加しやすいように工夫する。

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①：CAプラス)

⑧ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	2	2	2	3	3	2	2	3	3	2	12	12

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 神戸大学】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
復旦大学	認定者数	5	5	5	5	5	25
	認定単位数	48	48	48	48	48	240
高麗大学	認定者数	5	5	5	5	5	25
	認定単位数	48	48	48	48	48	240
チュラロンコン大学	認定者数	0	0	1	0	1	2
	認定単位数	0	0	12	0	12	24
年度別認定者数合計		10	10	11	10	11	52
年度別認定単位数合計		96	96	108	96	108	504

2. 国内連携大学 【大学名：】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0	0

(大学名： 神戸大学)

(タイプ A①：CAプラス)

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

○**日本人学生への危機管理に関する取り組み**：危機管理に関する全学的な取り組みとしては、海外渡航学生に対する危機管理体制を2009年より構築している。危機管理オリエンテーションの実施に加えて、派遣留学生危機管理サービスを提供し、ケガや病気への補償制度を構築している。日本人学生に対しては、これまでの10年間のキャンパスアジア・プログラムにおいて、派遣予定学生に合格発表直後から派遣までのスケジュール、派遣後の注意事項などについて指導を行ってきた。また、学生の派遣までの期間には、派遣後の研究計画について討議する自主ゼミナールを組織、実施している。派遣期間中は、派遣学生に月1回のレポートを提出させることで継続的に学生の学業・生活状況を把握し、留学先大学と連携して問題を解決できる体制を教員、事務担当者間で構築している。さらに帰国後も神戸大学から派遣された学生をサポートし、キャリア支援を行っている。日本人学生の留学支援のために、キャンパスアジア室と「留学なんでも相談室」を設置し、専門の教員と事務職員を配置している。「留学なんでも相談室」を常設していることから、国際協力研究科への入学を希望する学生に対しても入学前から留学相談にのったり、本プログラムに関わる留学情報を発信したりしている。

○**学生の履修に関する情報提供**：単位認定可能な科目、履修体系や順序、単位の相互認定の手続き、アカデミックカレンダーの相違・時差については、あらかじめ学生に対する渡航前オリエンテーションを複数回実施して情報を提供している。また、単位認定可能な科目については、「Joint Certificate」に関する手引きを作成し、単位互換の対象となる科目について予め情報を提供している。また、留学先の単位科目については国際協力研究科教務係と情報を共有している。

○**ボランティアやサークル活動等の課外活動による日本人学生と外国人学生の交流計画**：神戸大学には全学的な公認課外活動団体および同好会があり、課外活動に関する情報を発信している。国際協力研究科では、教務係と学生委員会が主催した海外からの新入学生を対象にしたティーパーティを実施し、日本人学生と外国人学生の交流を定期的に行っている。またゼミの教育の一環として、日本人学生と外国人学生とが共に防災ボランティアやフィールドワークに赴く教育機会を提供している。

○**国際機関・産業界などとの連携について**：神戸大学では、キャンパスアジア室を中心として、派遣学生の現地就職についても継続的に情報収集を行っている。また国内外でのインターンシップの機会も充実しており、世界銀行、UNESCO バンコク事務所、ラオス教育省などにおけるインターンシップを科目として履修することが可能である。こうした支援により、神戸大学からの参加学生は、語学力や留学経験が高く評価され、UNESCO バンコク事務所、KOICAなどの国際機関や、コンサルティング会社など日本内外のリスク・マネジメントに関わる民間企業に就職した。これらのOB・OGを通じたキャリア・セミナーの開催が可能である。

【計画内容】

○**サポート体制の充実**：神戸大学では、国際通用力のある質の高い教育を実施すること、キャンパスのグローバル化に向けた取り組みを進めることを掲げ、ダブルディグリー・プログラム制度の拡充、オンライン共同教育の充実を掲げている。本プログラムはその中核として位置づけられ、大学本部の全面的支援が確約されている。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

○**外国人学生のサポート体制の構築**：受入学生のサポートにおいては、各講義のTAやチューターを通じた留學生活全般のサポート体制を構築している。修学上の諸問題については各部局やプログラムとの連携の下に専任教員が個別に指導する体制を整備している。また、受入学生に対して、留学生オリエンテーションを実施し、履修指導を行っている。キャンパスアジア室の職員が、日常生活や学修上の悩みについて相談を受けるなどして、受入学生への十分な情報提供を実施してきた。さらに、プログラム独自の取り組みとして、毎年4月・9月の受入学生の日本到着直後から講義開始までの期間に日本語集中研修を行い、日本語初學者の学生にも基本的な会話能力を養成するとともに、日本文化を学ぶ機会を提供し、留學生活をスムーズに開始できるよう支援を行っている。

○**学生の履修に関する情報提供**：単位認定可能な科目、履修体系や順序、単位の相互認定の手続き、アカ

デミックカレンダーの相違・時差については、高麗大学校、復旦大学と共同で「Joint Certificate」に関する手引きを作成し、単位互換の対象となる科目について予め情報を共有している。学生の履修に支障をきたさないよう、高麗大学校・復旦大学の教職員との連絡を日常的に行い、学生の情報を交換している。

○**ボランティアやサークル活動等の課外活動による日本人学生と外国人学生の交流計画**：国際協力研究科では、教務係と学生委員会が主催で海外からの新入学生を対象にしたティーパーティを実施し、日本人学生と外国人学生の交流を定期的に行っている。またゼミの教育の一環として、日本人学生と外国人学生とが共に防災ボランティアやフィールドワークに赴く教育機会を提供している。

○**インターンシップ・就職支援・産業界との連携**：リスク・マネジメントの現場を知る機会を提供するため、「リスク・マネジメントセミナー」等に国際機関やNGOからの講師を招聘するとともに、インターンシップなどを通じたネットワークの構築を続けてきた。就職支援については、世界銀行やアジア開発銀行などの国際機関の人事担当者による就職セミナーや、国際機関で活躍している国際協力研究科の修了生によるキャリア・セミナーの活用を、参加学生に促してきた。これまでの主なインターンシップ先として、世界銀行（アメリカ）、ICLEI 持続可能性を目指す自治体協議会東アジア本部、UNESCAP 国連アジア太平洋経済社会委員会北東アジア事務所、アジア開発銀行、UNESCO アジア太平洋地域教育事務局（UNESCO バンコク）、マケレレ大学（ウガンダ）があり、2017年に8名、2018年に7名、2019年に7名派遣してきた。これまでのネットワークを維持しているため、本プログラムにおいても安定的に学生をインターンシップ先に送り出すことができる。

【計画内容】

○**サポート体制の充実**：留学生の往来を促進しつつ、プログラムの安定した実施を可能とするため、国際連携推進機構を中核とする全学規模の支援体制を発展させる。過去10年間の実績を踏襲し、神戸大学のキャンパスアジア室が3大学のプログラム運営の中心的役割を担い、下記③で述べるキャンパスアジア室の再設置により、規模の拡大と学生支援体制の強化を担う組織を構築する。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

○**関係大学間の連絡・情報共有体制の整備**：3大学間（復旦・神戸・高麗）ですでに学術交流協定を締結しており、教員間の連絡体制を構築している。神戸大学では国際協力研究科内に「キャンパスアジア室」を設置し、3大学間の協力体制の拠点として機能している。3大学のスタッフは年1回の実務者会議の他、年に数回神戸・上海・ソウルのいずれかで会合を行なっている。ASEAN2大学間とはすでに学術協定を構築しており、既存の3大学間連携で培った経験をいかして、ASEAN諸国との連絡・情報共有体制を構築する。

○**終了後のサポート体制と同窓会団体の整備**：修了学生の増加にともない、3カ国の参加学生と同窓会組織の整備を進めている。FacebookなどのSNSを活用してネットワークの形成を進めていることで、担当教職員の中韓両国への訪問時などにプログラム参加・参加予定学生が交流する機会となっている。また毎年国際シンポジウム開催時にも、参加学生と修了生が親睦を深めるイベントを独自に開催している。

○**リスク管理への配慮**：リスク管理については、緊急時に備えて、参加学生に民間企業による留学生危機管理サービス（OSSMA Plus）加入を義務付け、迅速な情報収集を行える体制を確立している。日常的なリスクは、指導教員・日本人チューター・キャンパスアジア室によって把握・共有され、学生のリスク管理に必要なサポート体制を整備している。

【計画内容】

○**関係大学間の連絡・情報共有体制の整備**：神戸大学大学院国際協力研究科、復旦大学国際関係・公共事務学院、高麗大学校国際大学院の部局間での協力体制の構築に加えて、本プログラムでは各大学の国際化を担当する部署の間でも協力体制を構築する。一方で、3大学プラスASEAN間の折衝、交流内容の検討などは、長期的な視野からプログラム全体の状況を把握できる専任組織の確立により運営体制の確立と安定に向けたキャンパスアジア室の再設置と、プログラムの深化と拡大のための専任スタッフの任命を行う。

○**終了後のサポート体制と同窓会団体の整備**：10年間の期間中に形成されたネットワークを拡大・拡充し、今後の修了生の増加に対応した体制を確立する。

○**リスク管理への配慮**：OSSMA Plus加入を前提とした全学的な危機管理体制を基盤として、問題の発生時には引き続き第1期・第2期プログラムにおいて構築された3大学プラスASEAN間の連絡体制を活用した情報収集を行う。

① 事業の実施に伴う大学の国際化

【実績・準備状況】

○他大学学生も参加できる組織的・継続的な教育連携体制の構築

プログラムの実施部局である神戸大学大学院国際協力研究科には、「三極連携による複数学位共同教育プログラム」によるダブルディグリー・プログラムが先行して存在している。神戸大学では「グローバル・キャンパス」の実現に向けて、ダブルディグリー・プログラムおよびオンライン共同教育プログラムの拡大を推進している。本プログラムは神戸大学の事業の意義および方向性に合致し、本プログラムを通じて神戸大学のグローバル・キャンパス化の実現に貢献するものである。

神戸大学全体では、下記の大学とのダブルディグリー・プログラムの協定関係が構築されている。

- インドネシア：インドネシア大学経済学研究科／ガジャマダ大学経済学研究科・社会政治学研究科・工学部・医・公衆衛生・看護学部／シアクアラ大学／パジャジャラン大学医学部
- 韓国：高麗大学校国際大学院
- タイ：チュラロンコン大学看護学研究科(手続中)/マヒドン大学シリラート病院医学部
- 台湾：国立台湾大学工学院
- 中国：復旦大学国際関係・公共事務学院／北京外国語大学北京日本学研究センター／武漢大学外国語言文学学院
- ベトナム：貿易大学
- ナミビア：ナミビア大学人文社会学部
- アメリカ合衆国：ピッツバーグ大学国際公共問題研究大学院
- イタリア：ナポリ東洋大学
- イギリス：イーストアングリア大学国際開発学部／サセックス大学教育社会学研究科／ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院／エセックス大学／シェフィールド大学マネジメントスクール
- ドイツ：ハンブルク大学人文科学部アジア・アフリカ研究所
- フランス：パリ大学地地理・歴史・経済・社会 科学研究科
- ベルギー：ルーヴェン大学ヨーロッパスタディーズ センター、経済経営学部、人文学部
- ポーランド：ヤゲウォ大学ヨーロッパ研究研究科

○高い語学力を有した事務職員の配置

国際協力研究科では、外国人教員や外国人学生の数が多いため、総務係・教務係・キャンパスアジア室ともに高い語学力を有している人材が配備されている。全学的な取り組みとして、神戸大学大学教育推進機構が主催となり、コロナ禍による大学間交流の有り方や留学再会に関するFD研修会や遠隔授業のスキルを高めるためのFD研修会を実施している。さらに事務職員のグローバル化対応能力の向上を図るため、実務能力養成のための語学等研修や国内外における国際職員研修を行い、学生の留学支援および外国人教員への支援を充実させることで、教育環境のグローバル化に向けた制度を構築している。

【計画内容】

○組織的・継続的な教育連携を実施する体制の構築

本プログラムは、この枠組みの中で中国・韓国・ASEANとの関係を発展させ、学生交流・研究交流を深化させるという点で、神戸大学の国際化戦略の中核として位置づけられている。本プログラムを通じて修士号を取得し、博士課程に進学した者が、今後上記協定大学への留学もしくは在外研究を行うことも可能である。本プログラムが「三極連携による複数学位共同教育プログラム」の本旨にも則った留学ルートの確立へと連結されることが期待されている。また、本学で学ぶ留学生が、本学を窓口として復旦大学・高麗大学校・ASEANの大学に留学することを可能にする制度を構築する。

国際協力研究科では、交流にかかる業務が一部の教職員に偏らないように、教務係・総務係・キャンパスアジア室と連携して教職員間の情報共有をしており、事務局機能を強化している。また関連の委員会とも本プログラムの派遣・受入学生の情報を共有し、研究科全体で派遣・受入学生の支援を実施している。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

○交流プログラム内容の積極的な発信

プログラム専用のホームページは、2012年3月に立ち上げ、活動内容の広報に用いるとともに、募集要項や願書の配布、イベントの告知など様々な用途に活用し、情報発信の拠点として定着している。また、本ホームページは Facebook とも連動し、SNS を通じた交流の拡大を可能にしている。多言語化については、2013年3月に英語版ページを開設し、日英両言語を基本としながら、中韓2か国語でも広報体制の拡充に努めている。

これとともに、プログラム開始当初よりプログラム紹介のパンフレットを作成して、復旦大学・高麗大学校を含む関係各所および学生に広く配布している。また、「リスク・マネジメントセミナー」やスタディツアーなどの活動の様子やシンポジウムの内容を収録したニューズレターを継続して発行し、最終的には第17号まで継続している。ニューズレターについても、協力を得た機関等に送付するとともに、新入生ガイダンスや説明会で配布し、プログラムの広報に活用している。また、毎年4月の入学式、6月のオープンキャンパス、および10月に開催される次年度入学者用の合格者オリエンテーションにて、キャンパスアジア室スタッフによるプログラム紹介および留学に関する事前相談を開催し、プログラムの認知度を高めている。

○外国語による本プログラムの情報発信

本プログラムの教育内容、質を保証する観点、学生への本プログラムの内容に関する情報提供の観点から、本プログラムの実施状況や交流プログラムについて、英語と日本語による情報を定期的に発信している。キャンパスアジア・プログラムのホームページは英語と日本語で行い、さらに国際協力研究科や神戸大学のホームページとも連動して情報を掲載するようにしている。本プログラムに関するパンフレットやニューズレターも英語と日本語で作成しており、日本人および外国人の学生に対して本プログラムに関する適切な情報を発信している。

○大学のグローバル化に向けた国内外への教育情報の発信

神戸大学・復旦大学・高麗大学校の持ち回りで毎年開催された国際合同シンポジウムは、学生の教育機会と同時に本プロジェクトの成果報告や情報公開の重要な機会としても位置づけられた。2015年度は、タイ・バンコクでチュラロンコン大学との共催で UNESCO バンコクの支援を得て行われ、プログラムの成果を日中韓の枠組みを超えて発表する機会するとともに、プログラムの拡大に向けて他の研究・教育機関と協力関係を構築する足がかりとなっている。

また、中央教育審議会大学分科会国際的な大学評価活動に関するワーキンググループ「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」（平成22年5月）が掲げる、国際的な活動に特に重点を置く大学において公表が望まれる項目について、本学および国際協力研究科のホームページでは、学生一人当たり教員比率、インターンシップの機会の提供状況、卒業後の進路状況（進学率、就職率、資格取得の状況等）、修得すべき知識・技能の内容を明確化し、それを体系的に修得できる教育課程、授業科目の計画的な履修方針に基づいた授業科目名とシラバスを公開しており、大学のグローバル化に向けた戦略的な国内外への教育情報の発信を行っている。

【計画内容】

10年間のプログラムを通じて確立したウェブサイト・SNS・ニューズレターによる情報発信体制を引き継ぎ、その内容の充実化を図るものとする。また、過去10年の間ですでの実績のあるリスク・マネジメントセミナー・学生成果報告会・ワークショップ・シンポジウム等の機会を継続的に開催し、学内外にプログラムの成果を発信する。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	復旦大学(中華人民共和国)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>神戸大学と復旦大学の間では、1979年以來、復旦大学中文系の教員が北京大学と4年ごとに交互に神戸大学の特任教員として赴任し、教育に携わってきた。その後2006年からは、文学部との部局間協定の学術交流協定に基づき、復旦大学との人的交流を実施し、2008年からは、両大学の間で大学間交流のための学術交流協定が締結され、現在まで教員や学生交流レベルで活発な交流が続けられている。例えば、2009年12月には国際交流担当理事・副学長が復旦大学の招聘を受け、国際シンポジウム「緑色革命と世界秩序」に出席した。2009年11月に開催された神戸大学WEEKでは、国際文化学研究所が主催した国際学術シンポジウム「変動する国際秩序と東アジア地域協力の新課題- 平和維持・協力の枠組み・人材養成-」において、復旦大学、日本研究センター長郭定平教授が講演された。</p> <p>2011年11月には、「大学の世界展開力強化事業の採択事業」、タイプA「キャンパスアジア」中核拠点形成支援事業への採択が決定し、実施部局の国際協力研究科と復旦大学国際関係・公共事務学院間との間で2012年3月に授業料相互免除、ダブルディグリー、交換留学の部局間協定が締結された。この協定に基づき、2012年9月から2021年3月まで合計71名のダブルディグリー、交換留学が行われた。</p> <p>2012年2月から2021年3月までの間に、復旦大学の国際部、研究生院、留学生工作処、国際関係・公共事務学院の国際交流責任者及びキャンパスアジア担当者が毎年年初に神戸大学を訪問し意見交換を行ったり、国際協力研究科キャンパスアジア室の担当教職員が復旦大学を訪問したりするなど、両大学間の実務者間レベルで良好な関係を構築してきた。</p> <p>2018年及び2019年には、国際協力研究科の助教2名が客員研究員として復旦大学において研究活動に従事した。さらに復旦大学主催のフォーラムにおいて、国際協力研究科の教員が招待発表した。また2018年、復旦大学及び高麗大学校より教員を招聘して「Risk Management」セミナーの授業を開講した。更に、2019年以降秋学期にオンライン3大学共同講義を実施し、「Risk Management in East Asia」の図書を出版した。このように、復旦大学とは教育・研究交流を継続的に行ってきた。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>復旦大学・高麗大学校・神戸大学にはそれぞれキャンパスアジア・プログラムを担当してきた教員が残っており、今後の交流プログラムについても引き続き担当する。したがって、現時点においても、神戸大学・復旦大学・高麗大学校の担当者間ではメールおよび電話によって即応的に情報を共有する状況にあり、実施体制についてはこれまでの交流関係を基盤としてすでに構築済みである。</p> <p>上記の実施体制を基にして、2021年度秋学期から学生の相互派遣が実施される。また、2021年度中に神戸大学・復旦大学・高麗大学校の関係教員が一堂に会する教員連絡会議の開催が予定されており、今後の交流関係の発展について具体的な調整が行われることになっている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	高麗大学校(大韓民国)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>高麗大学校は韓国で最も水準の高い教育研究機関の一つで、国際的にも優れた相対評価を受けている。神戸大学では、国際協力研究科が高麗大学校国際大学院との部局レベルの協定を締結している。同大学校国際大学院は国際問題研究の専門的な教育を行うため設立された部局である。韓国の同種の大学院のなかではやはり首位であるソウル国立大学校の国際大学院に次ぐ地位を占めており、韓国を代表する国際問題・国際協力の教育研究機関といえる。2010年10月、国際協力研究科が「三極連携による複数学位共同教育プログラム」によるアジアでの連携体制強化のため、高麗大学校国際大学院との間で大学院教育連携に関する協定に調印した。これによって、修士課程における日韓間でのダブルディグリー・プログラムや、博士課程におけるサンドイッチプログラム等の実施が可能となり、また教員の相互派遣制度についても協定を締結している。</p> <p>2011年11月に、「大学の世界展開力強化事業の採択事業」、タイプA「キャンパスアジア」中核拠点形成支援事業に採択されて以来、実施部局の国際協力研究科と高麗大学校国際大学院間との交流は一層活性化され、2012年2月から2020年9月まで合計41名のダブルディグリー、交換留学の学生交換が行われた。また、2012年5月には、神戸大学と高麗大学校の間で全学規模での大学間交流の学術交流協定を締結した。</p> <p>2012年2月以降、高麗大学校の国際大学院キャンパスアジア・プログラム担当教職員が毎年年初に神戸大学を訪問し意見交換を行ったり、神戸大学国際部職員及び国際協力研究科キャンパスアジア室の担当教職員が毎年2-3月と8-9月に高麗大学校を訪問するなど、両大学間の実務者間レベルで良好な関係を構築してきた。教員交流も継続的に実施しており、2013年より複数名の教員の派遣および受入を実践している。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>復旦大学・高麗大学校・神戸大学にはそれぞれキャンパスアジア・プログラムを担当してきた教員が残っており、今後の交流プログラムについても引き続き担当する。したがって、現時点においても、神戸大学・復旦大学・高麗大学校の担当者間ではメールおよび電話によって即応的に情報を共有する状況にあり、実施体制についてはこれまでの交流関係を基盤としてすでに構築済みである。</p> <p>上記の実施体制を基にして、2021年度秋学期から学生の相互派遣が実施される。また、2021年度中に神戸大学・復旦大学・高麗大学校の関係教員が一堂に会する教員連絡会議の開催が予定されており、今後の交流関係の発展について具体的な調整が行なわれることになっている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	チュラロンコン大学 (タイ王国)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>チュラロンコン大学は1917年に設立されたタイの国立大学で、19の学部、23のカレッジと研究機関を有する総合大学である。学部学生25,713名、修士課程学生9,785名、博士課程学生2,713名で、Diplomaコースを含めた全学生数は37,880名、教員数は2,946名である(2020)。QS World University Rankings2021総合で世界208位、QS Asia University Rankings 2020で45位、国内では第1位に位置する(2020)。20のinternational programがあり、看護学研究科ではPh.Dコースを有する。</p> <p>看護学は大学院のみを設置(修士課程、博士課程)しており、学部教育としては、附属大学としてタイ赤十字看護大学、警察看護大学がある。チュラロンコン大学は、本学大学院保健学研究科がすでに学術交流協定を締結しており、ダブルディグリー・プログラム、交換留学での学生派遣・受入が可能である。</p> <p>現在保健学研究科では「アジア健康科学フロンティアセンター」を設置し、アジア諸国との連携を強化しており、また「環太平洋諸国との連携による次世代グローバルヘルスリーダー育成プログラム」により環太平洋諸国との学術交流を深めている。2019年7月には、チュラロンコン大学看護学部のJiraporn博士が本学に研究員として1か月滞在し、大学院生への教育と国際共同研究プログラムの立ち上げを行った。また、2020年には、保健学研究科の博士後期課程の院生が4か月間チュラロンコン大学看護学部に留学した。この際、チュラロンコン大学の「One Semester Scholarship Programme for ASEAN or Non-ASEAN Countries」で奨学金を受給した。</p> <p>チュラロンコン大学との教員交流に関しては、2019年に2名の研究者を受け入れている。保健学研究科の教員と共同で「工学技術を活用した環太平洋アジア地域における認知症家族介護者支援モデルの開発」について取り組んでおり、両大学間での学生交流および教員交流の関係を構築してきた。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>チュラロンコン大学と本学保健学研究科にはそれぞれ学生交流・教員交流を担当する教員が在籍しており、今後の交流プログラムについても引き続き担当する。したがって、現時点においても、チュラロンコン大学と本学保健学研究科の担当者間ではメールおよび電話によって即応的に情報を共有する状況にある。プログラムの実施体制についてはこれまでの交流関係を基盤としてすでに構築済みである。</p> <p>上記の実施体制を基にして、本年度秋学期から学生の相互派遣を実施する。また、本年度中に5大学(神戸大学・復旦大学・高麗大学校・チュラロンコン大学・ラオス国立大学)の関係教員が一堂に会する教員連絡会議の開催が予定されており、今後の交流関係の発展について具体的な調整が行われることになっている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名
(国名)

ラオス国立大学 (ラオス人民民主共和国)

① 交流実績 (交流の背景)

神戸大学大学院国際協力研究科は、ラオス国立大学経済経営学部の設立にあたって多くの教員を派遣して支援してきた。ラオス日本人材開発研究所はラオス国立大学経済経営学部に隣接して立地しており、派遣された教員はこの研究所 (当時はセンター) の支援も行ってきた。研究所の副所長のパンパキット氏 (当時) は、国際協力研究科で博士号を取得し、その後3年間助教を務め、2013年度から3年間客員准教授として講義を担当した経験もある。また、現在ラオス神戸大学同窓会の会長でもある。そのため、神戸大学大学院国際協力研究科とは長年の協力関係にある。

ラオス国立大学を通じてラオス教育省へのインターシップも継続的に実施している。本プログラムの修了生で、現在は博士課程後期課程に進学した学生が、ラオス教育スポーツ省への教育政策の提言を行った経験もある。

神戸大学大学院国際協力研究科の小川啓一教授は、ラオスでの14年間に渡って高等教育の政策提言やカリキュラム開発、教育計画へのアドバイスを実施し、高等教育の発展に多大な貢献をしたことが高く評価され「労働」勲章を授与した。特に、ラオス教育スポーツ省高等教育局や国立大学と密接な関係を築きながら、高等教育局官僚の能力開発 (Capacity Building) や国立大学の研究者育成に寄与した。これまでに、ラオス国立大学をはじめとする複数の国立大学の研究者を対象に、研究計画書の作成、データ分析や論文執筆等をテーマとした講義やワークショップを開催してきた。また、神戸大学で過去9年間実施している国際協力機構の教育行財政研修や首都ビエンチャンでの事後研修を通じて、ラオス教育スポーツ省官僚の教育行財政や教育計画に関する能力向上にも多大な貢献をしている。

2017年には、国際協力研究科の小川啓一教授が代表を務めた文部科学省政府開発援助ユネスコ活動補助金事業「アセアン諸国の就学前教育における持続可能な行財政運営に向けた現状分析及び政策オプションの提案」を通じて、ラオスをはじめとするASEAN諸国にて、持続可能な就学前教育行財政運営に関するワークショップをユネスコ・アジア太平洋地域教育局 (ユネスコ・バンコク) との協同で開催した。

② 交流に向けた準備状況

ラオス国立大学には、国際協力研究科を修了したラオスからの留学生が、教員として在籍している。ラオス国立大学の教員を対象に研究計画書の作成、データ分析や論文執筆等をテーマとした講義やワークショップを開催してきた経緯から、ラオス国立大学の教員との交流プログラムについてもすでにネットワークを構築している。ラオス国立大学のプログラム担当者との交流については、神戸大学を通じて高麗・復旦大学とも連携を構築する。現時点においても、神戸大学・復旦大学・高麗大学校の担当者間ではメールおよび電話によって即応的に情報を共有する状況にあるので、ラオス国立大学を含んだ連携体制の拡大についてはこれまでの交流関係を基盤として発展させることが可能である。

事業計画の実現性、事業の発展性 【①は1ページ以内、②、③、④は合わせて3ページ以内】

① 年度別実施計画

【2021年度（申請時の準備状況も記載）】

国際連携推進機構及び傘下の各センター長を本プログラム委員に加え、全学規模の支援体制の発展的な構築を行う準備を進める。その上で、国際教育総合センターの大学の世界展開力業務担当教員の協力を得ながら、本事業の申請、準備作業に注力する。学生交流においては、10月の受入・派遣に向けた学生の選考作業を行う。現時点においては、神戸大学から5名のダブルディグリー学生および1名の交換留学生の派遣と2名の受入が予定されている。また、高麗大学校キャンパスアジア・プログラム主催のサマースクール参加者募集、選考作業を行う。これらの取り組みと同時に、本事業の本格始動に向けたキャンパスアジア室の再設置、秋募集、選考作業を行う。

【2022年度】

本事業を本格的に開始し、日中韓プラスASEANの学生交流・派遣およびオンライン共同教育講座の制度化を目指す。ダブルディグリー学生および交換留学生の指導について、所属先大学と派遣先大学の指導教員間の研究指導について連携体制を確認するため、継続的に年1回神戸大学・復旦大学・高麗大学校の教員間の連絡会議を実施し、ダブルディグリー学生、交換留学生の共同指導のための意見交換の機会とする。受入・派遣学生数については、復旦大学、高麗大学校へ各5～10名程度の博士課程前期課程におけるダブルディグリー、交換留学生を派遣し、復旦大学、高麗大学校からはそれぞれ5～10名程度の博士課程前期課程の学生を受け入れる。復旦大学・高麗大学校間のダブルディグリー・交換留学の派遣・受入学生を留学の期間中に、ラオス国立大学、チュラロンコン大学に派遣する。ラオス国立大学からは交換留学生1名を受け入れ、短期研修で4名を派遣する。チュラロンコン大学へは、短期留学で1名の派遣、ダブルディグリーで1名を受け入れる。また、チュラロンコン大学、ラオス国立大学では、従来から実施されてきたインターンシップやフィールドトリップを制度化し、単位化することを目指し、5大学間で実現に向けた協議を行う。これらの事業をもとに、本学（神戸大学）で5大学間の国際シンポジウムを開催し、2年間の経験を共有するとともに、中間評価に向けたプログラムの課題の洗い出しを行う。

【2023年度】

中間評価に基づき、コンソーシアムのもとでの学生交流を促進・継続し、プログラム内容の充実を図る。引き続き、復旦大学、高麗大学校各大学へそれぞれ5名程度の博士課程前期課程、後期課程のダブルディグリー、交換留学生を派遣する。同時に、復旦大学、高麗大学校両大学よりそれぞれ5名程度の前期課程、後期課程の学生を受け入れる。復旦・高麗大学校間のダブルディグリー・交換留学の派遣・受入学生を留学の期間中に、ラオス国立大学、チュラロンコン大学に派遣する。チュラロンコン大学は、短期留学で2名の派遣、ダブルディグリー留学および短期留学でそれぞれ1名を受け入れる。ラオス国立大学からは交換留学生1名を受け入れ、短期研修で4名を派遣する。また、前年度に神戸大学・復旦大学・高麗大学校での合意を目指したインターンシップやフィールドトリップの単位化を実現させ、本年度からの実施を行うこととする。

【2024年度】

前年度の実績に基づきつつ、上記のプログラム内容を継続して行う。神戸大学・復旦大学・高麗大学校間の学生の受入／派遣を各大学間で5～10名の規模で行う。チュラロンコン大学へは、短期留学で2名の派遣、ダブルディグリーで1名を受け入れる。復旦大学・高麗大学校間のダブルディグリー・交換留学の派遣・受入学生を留学の期間中に、ラオス国立大学、チュラロンコン大学に派遣する。ラオス国立大学からは交換留学生1名を受け入れ、短期研修で4名を派遣する。また神戸大学・復旦大学・高麗大学校の担当教員間の連絡会議を定期的で開催するとともに、国際シンポジウムを開催する。

【2025年度】

前年度の実績に基づきつつ、上記のプログラム内容を継続して行う。神戸大学・復旦大学・高麗大学校間の学生の受入／派遣を各大学間で5～10名の規模で行う。チュラロンコン大学へは、短期留学で2名の派遣、ダブルディグリーおよび短期留学でそれぞれ1名を受け入れる。ラオス国立大学からは交換留学生1名を受け入れ、短期研修で4名を派遣する。復旦大学・高麗大学校間のダブルディグリー・交換留学の派遣・受入学生を留学の期間中に、ラオス国立大学に派遣する。また5大学（3大学プラスASEAN）の担当教員間の連絡会議を定期的で開催するとともに、本学で国際シンポジウムを開催する。

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

【実績・準備状況】

○評価体制の整備／構想をサポートする全学的体制の充実

本プログラムの選考方法や派遣数などの実績については、国内外の外部評価委員、および理事・副学長をはじめ、国際連携推進機構その他の学内関係部局から参加者を得る形でのプログラム委員会を各年度の終わりに実施し、プログラムの実施状況と教育内容に関するレビューを行った。委員会での討議内容は復旦大学、高麗大学校へも送付され、認識の共有を図った。

上記のプログラム委員会・外部評価委員等の運営については、副学長・理事を筆頭とする国際連携推進機構の協力を得て行なわれている。さらに、これまでの3大学共同シンポジウム等の場においては、事務職員も参加し、事務方レベルでの相互交流の機会も設けられている。

【計画内容】

円滑なプログラム運営のためにはキャンパスアジア室の存続による運営体制の維持が不可欠である。評価体制については、副学長・理事を筆頭とする国際連携推進機構を協力部局から責任部局へと昇格させ、大学本部としてのプログラムに対する実施責任を明確化する。

③ 補助期間終了後の事業展開

2026年3月のプログラム終了後も、神戸大学・復旦大学・高麗大学校の授業料相互不徴収に関する合意に基づき、ダブルディグリーを含む事業をこれまでと同様に継続していくものとする。

奨学金等については、JASSO等各国既存の制度を活用するとともに、宿舍等の便宜の提供についても各大学がそれぞれの事情に基づいて最大限の配慮を行うものとする。

本補助事業によって構築されたこうした制度の維持発展と併せて、第1期および第2期プログラムで培われた各大学部局間の密接な交流実績と信頼関係を、本プログラム期間中に大学本部レベルに引き上げ、そのような関係と実績を基盤として、プログラム終了後は大学間交流をよりいっそう全学的な交流関係へと拡大・深化させるものとする。

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

本学では、学内体制を整備し、国際性に富みながら地域の特性に応じたアプローチの支援、部局横断的な先端研究、融合研究を可能にする環境づくりを進めている。支援期間終了後は、高度かつ実践的な人材を引き続き養成するため、「神戸大学教育研究活性化支援経費」を充当する他、継続的な冠奨学金を創設するあるいは授業料免除などさまざまな支援を検討する。（3大学間では、パイロットプログラム実施期間中に学費の相互不徴収についての合意がなされている。）また、高度な教育研究の遂行に必要なとされる国際連携業務を高いレベルで実現し、大学院生の研究成果の国際会議などでの発表や調査研究、あるいは長期インターンシップなどについては「神戸大学基金」等による旅費などの支援を行っていく。一方で、英語コース設置のための経費として、「神戸大学国際交流事業促進基金」または運営費交付金を利用し、安定したコースの供給を行うなど、本プログラムの自主的・恒常的な展開を図っていく。

【旅費】 事業継続等に係る旅費については、神戸大学教育研究活性化支援経費等で最大限の努力を行う。

【人件費】 専任コーディネーター等の人件費については、緩やかに既定の人件費の中に組み込んでいく。

【事業推進費】 神戸大学教育研究活性化支援経費等を活用する。

【計画に関する大学負担額】 神戸大学は、大学負担となる経費については、学内予算または神戸大学教育研究活性化支援経費等の資金を活用し、事業を実施する。

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和3年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

<2021年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	1,200		1,200	
	①設備備品費	600		600	
	・パソコン(1年目：3台X200000円)	600		600	
	・				
	②消耗品費	600		600	
	・消耗品費(文具、用紙類、トナー、用具、ソフトライセンス等)	600		600	
	・				
	[人件費・謝金]	5,453		5,453	
	①人件費	5,053		5,053	
	・プログラムコーディネーター(助教・1年目10-3月)	3,400		3,400	
	・事務補佐員(1年目10-3月)	1,500		1,500	
	・非常勤講師(リスクマネジメント・セミナー講師)	153		153	
	②謝金	400		400	
	・外部評価指導助言謝金(4名×1.5時間×5000円)	30		30	
	・リスクマネジメントセミナー講師(2回×30000円)	60		60	
	・補助業務 (資料収集、セミナー開催補助、留学生受入業務補助)(1200円)	50		50	
	・チューター謝金(1000)前期	60		60	
	・チューター謝金(1000)後期	200		200	
	[旅費]	3,614		3,614	
	・国内旅費	150		150	
	・国内招へい旅費(外部評価委員会出席)(4名×45000円)	180		180	
	・外国旅費(海外協定校派遣に伴う学生指導、運営に関する打ち合わせ)	300		300	
	・外国旅費(シンポジウム参加)	600		600	
	・シンポジウム招聘旅費(招聘する年のみ)				
	・外国旅費(派遣生に対するフォローアップ)	184		184	
	・外国旅費(インターンシップ先の開拓、コンソーシアムの拡大に向けた調査と協議)	2,000		2,000	
	・外国旅費(外国人講師招聘費)	200		200	
	[その他]	3,628	860	4,488	
	①外注費	100		100	
	・外注費	100		150	
	・議事録作成、出張録音				
	②印刷製本費	150		150	
	・プロジェクト広報資料	150		150	
	・シンポジウムポスター				
	③会議費	500		500	
	・	500			
	④通信運搬費	56		56	
	・WiFiレンタル	50		50	
	・メールングリスト、Webサービス	6		6	
	⑤光熱水料				
	・				
	⑥その他(諸経費)	2,822	860	3,682	
	・派遣学生 航空券	800		800	
	・受入学生日本語講座運営経費		860	860	
	・受入学生用宿舍家賃(DD)	1,680		1,680	
	・受入学生用宿舍家賃(交換)	252		252	
	・受入学生用宿舍家賃(短期)	90		90	
2021年度	合計	13,895	860	14,755	

(大学名：神戸大学)

(タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2022年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	200		200	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費	200		200	
	・消耗品費	200		200	
	・				
	[人件費・謝金]	8,253	1,500	9,753	
	①人件費	7,853	1,500	9,353	
	・プログラムコーディネーター(助教)	4,700	1,500	6,200	
	・事務補佐員	3,000		3,000	
	・非常勤講師(リスクマネジメント・セミナー講師)	153		153	
	②謝金	400		400	
	・外部評価指導助言謝金(4名×1.5時間×5000円)	30		30	
	・リスクマネジメントセミナー 講師(2回×30000円)	60		60	
	・補助業務 (資料収集、セミナー開催補助、留学生受入業務補助)(1200円)	50		50	
	・チューター謝金(1000)前期	60		60	
	・チューター謝金(1000)後期	200		200	
	[旅費]	1,734		1,734	
	・国内旅費	20		20	
	・国内招へい旅費(外部評価委員会出席)(4名×45000円)	250		250	
	・国内移動(シンポジウムバス借上げ)	180		180	
	・外国旅費(海外協定校派遣に伴う学生指導、運営に関する打ち合わせ)	150		150	
	・外国旅費(シンポジウム参加)				
	・シンポジウム招聘旅費(招聘する年のみ)	350		350	
	・外国旅費(派遣生に対するフォローアップ)	184		184	
	・外国旅費(インターンシップ先の開拓、コンソーシアムの拡大に向けた調査と協議)	600		600	
	・外国旅費(外国人講師招聘費)				
	[その他]	3,938	860	4,798	
	①外注費	200		250	
	・議事録作成、出張録音	200		250	
	②印刷製本費	250		250	
	・プロジェクト広報資料	150		150	
	・シンポジウムポスター	100		100	
	③会議費	500		500	
	・	500		500	
	④通信運搬費	56		56	
	・WiFiレンタル	50		50	
	・メールングリスト、Webサービス	6		6	
	⑤光熱水料				
	・				
	⑥その他(諸経費)	2,932	860	3,792	
	・派遣学生 航空券	800		800	
	・受入学生日本語講座運営経費		860	860	
	・受入学生用宿舍家賃(DD)	1,680		1,680	
	・受入学生用宿舍家賃(交換)	252		252	
	・学生宿泊費用(シンポジウム)(11名×2泊×5500円)	110		110	
	・受入学生用宿舍家賃(短期)	90		90	
2022年度	合計	14,125	2,360	16,485	

(大学名：神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2023年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	200		200	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費	200		200	
	・消耗品費	200		200	
	・				
	[人件費・謝金]	3,553	6,353	9,906	
	①人件費	3,153	6,353	9,506	
	・プログラムコーディネーター(助教)		6,200	6,200	
	・事務補佐員	3,000		3,000	
	・非常勤講師(リスクマネジメント・セミナー講師)	153	153	306	
	②謝金	400		400	
	・外部評価指導助言謝金(4名×1.5時間×5000円)	30		30	
	・リスクマネジメントセミナー 講師(2回×30000円)	60		60	
	・補助業務 (資料収集、セミナー開催補助、留学生受入業務補助)(1200円)	50		50	
	・チューター謝金(1000)前期	60		60	
	・チューター謝金(1000)後期	200		200	
	[旅費]	2,084	200	2,284	
	・国内旅費	20		20	
	・国内招へい旅費(外部評価委員会出席)(4名×45000円)	180		180	
	・外国旅費(海外協定校派遣に伴う学生指導、運営に関する打ち合わせ)	300		300	
	・外国旅費(シンポジウム参加)	600		600	
	・外国旅費(派遣生に対するフォローアップ)	184		184	
	・外国旅費(インターンシップ先の開拓、コンソーシアムの拡大に向けた調査と協議)	600		600	
	・外国旅費(外国人講師招聘費)	200	200	400	
	[その他]	3,628	860	4,488	
	①外注費	100		100	
	・議事録作成、出張録音	100		100	
	②印刷製本費	150		150	
	・プロジェクト広報資料	150		150	
	・シンポジウムポスター				
	③会議費	500		500	
	・	500		500	
	④通信運搬費	56		56	
	・WiFiレンタル	50		50	
	・メールリングリスト、Webサービス	6		6	
	⑤光熱水料				
	・				
	⑥その他(諸経費)	2,822	860	3,682	
	・派遣学生 航空券	800		800	
	・受入学生日本語講座運営経費		860	860	
	・受入学生用宿舍家賃(DD)	1,680		1,680	
	・受入学生用宿舍家賃(交換)	252		252	
	・受入学生用宿舍家賃(短期)	90		90	
2023年度	合計	9,465	7,413	16,878	

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2024年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	200		200	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費	200		200	
	・消耗品費	200		200	
	・				
	[人件費・謝金]	3,553	6,353	9,906	
	①人件費	3,153	6,353	9,506	
	・プログラムコーディネーター(助教)		6,200	6,200	
	・事務補佐員	3,000		3,000	
	・非常勤講師(リスクマネジメント・セミナー講師)	153	153	306	
	②謝金	400		400	
	・外部評価指導助言謝金(4名×1.5時間×5000円)	30		30	
	・リスクマネジメントセミナー 講師(2回×30000円)	60		60	
	・補助業務 (資料収集、セミナー開催補助、留学生受入業務補助)(1200円)	50		50	
	・チューター謝金(1000)前期	60		60	
	・チューター謝金(1000)後期	200		200	
	[旅費]	2,084	200	2,284	
	・国内旅費	20		20	
	・国内招へい旅費(外部評価委員会出席)(4名×45000円)	180		180	
	・外国旅費(海外協定校派遣に伴う学生指導、運営に関する打ち合わせ)	300		300	
	・外国旅費(シンポジウム参加)	600		600	
	・外国旅費(派遣生に対するフォローアップ)	184		184	
	・外国旅費(インターンシップ先の開拓、コンソーシアムの拡大に向けた調査と協議)	600		600	
	・外国旅費(外国人講師招聘費)	200	200	400	
	[その他]	3,628	860	4,488	
	①外注費	100		100	
	・議事録作成、出張録音	100		100	
	②印刷製本費	150		150	
	・プロジェクト広報資料	150		150	
	・シンポジウムポスター				
	③会議費	500		500	
	・	500		500	
	④通信運搬費	56		56	
	・WiFiレンタル	50		50	
	・メールリングリスト、Webサービス	6		6	
	⑤光熱水料				
	・				
	⑥その他(諸経費)	2,822	860	3,682	
	・派遣学生 航空券	800		800	
	・受入学生日本語講座運営経費		860	860	
	・受入学生用宿舍家賃(DD)	1,680		1,680	
	・受入学生用宿舍家賃(交換)	252		252	
	・受入学生用宿舍家賃(短期)	90		90	
2024年度	合計	9,465	7,413	16,878	

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2025年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	200		200	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費	200		200	
	・消耗品費	200		200	
	・				
	[人件費・謝金]	3,653	6,353	10,006	
	①人件費	3,153	6,353	9,506	
	・プログラムコーディネーター(助教)		6,200	6,200	
	・事務補佐員	3,000		3,000	
	・非常勤講師(リスクマネジメント・セミナー講師)	153	153	306	
	②謝金	500		500	
	・外部評価指導助言謝金(4名×1.5時間×5000円)	30		30	
	・リスクマネジメントセミナー 講師(2回×30000円)	60		60	
	・補助業務 (資料収集、セミナー開催補助、留学生受入業務補助)(1200円)	150		150	
	・チューター謝金(1000)前期	60		60	
	・チューター謝金(1000)後期	200		200	
	[旅費]	2,284	200	2,484	
	・国内旅費	20		20	
	・国内招へい旅費(外部評価委員会出席)(4名×45000円)	180		180	
	・国内移動(シンポジウムバス借上げ)	250		250	
	・外国旅費(海外協定校派遣に伴う学生指導、運営に関する打ち合わせ)	150		150	
	・外国旅費(シンポジウム参加)				
	・シンポジウム招聘旅費(招聘する年のみ)	700		700	
	・外国旅費(派遣生に対するフォローアップ)	184		184	
	・外国旅費(インターシップ先の開拓、コンソーシアムの拡大に向けた調査と協議)	600		600	
	・外国旅費(外国人講師招聘費)	200	200	400	
	[その他]	4,138	860	4,998	
	①外注費	200		200	
	・議事録作成、出張録音	200		200	
	②印刷製本費	300		300	
	・プロジェクト広報資料	150		150	
	・シンポジウムポスター	150		150	
	③会議費	650		650	
	・	650		650	
	④通信運搬費	56		56	
	・WiFiレンタル	50		50	
	・メールングリスト、Webサービス	6		6	
	⑤光熱水料				
	・				
	⑥その他(諸経費)	2,932	860	3,792	
	・派遣学生 航空券	800		800	
	・受入学生日本語講座運営経費		860	860	
	・受入学生用宿舍家賃(DD)	1,680		1,680	
	・受入学生用宿舍家賃(交換)	252		252	
	・学生宿泊費用(シンポジウム)(11名×2泊×5500円)	110		110	
	・受入学生用宿舍家賃(短期)	90		90	
2025年度	合計	10,275	7,413	17,688	

(大学名： 神戸大学

) (タイプ A①:CAプラス)

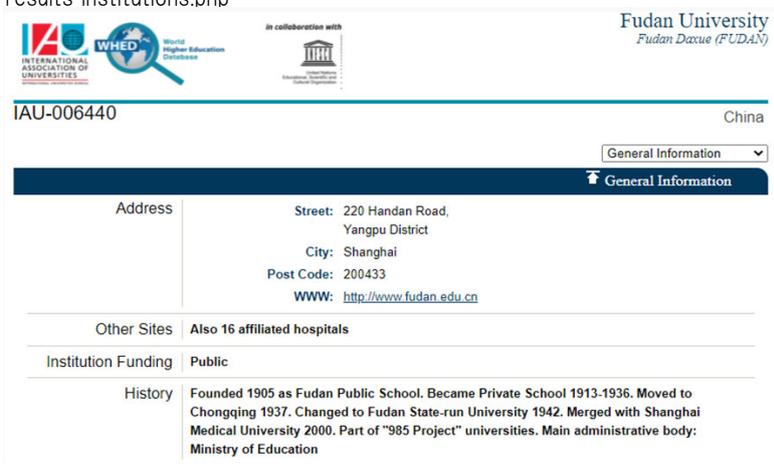
海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日)復旦大学		国 名	中華人民共和国																																				
	(英) Fudan University																																							
設 置 形 態	国立	設 置 年	1905 (1941)																																					
設 置 者 (学 長 等)	馬相伯																																							
学 部 等 の 構 成	<table border="0"> <tr> <td>学院(学部)</td> <td>研究所</td> </tr> <tr> <td>人文学院</td> <td>中国語文学研究所</td> </tr> <tr> <td>外文学院</td> <td>中国社会主义市场经济研究中心</td> </tr> <tr> <td>新聞学院</td> <td>アメリカ問題研究中心</td> </tr> <tr> <td>法学院</td> <td>日本研究中心</td> </tr> <tr> <td>经济学院</td> <td>歴史地理研究所</td> </tr> <tr> <td>管理学院</td> <td>人口研究所</td> </tr> <tr> <td>技術科学工程学院</td> <td>世界経済研究所</td> </tr> <tr> <td>生命科学学院</td> <td>金融研究所</td> </tr> <tr> <td>上海医学院</td> <td>数学研究所</td> </tr> <tr> <td>公共衛生学院</td> <td>現代物理研究所</td> </tr> <tr> <td>薬学院</td> <td>遺伝学研究所</td> </tr> <tr> <td>看護学院</td> <td>上海市心臓血管病研究所</td> </tr> <tr> <td>情報科学工程学院</td> <td>上海市放射医学研究所</td> </tr> <tr> <td>国際関係公共行政学院</td> <td>肝臓ガン研究所</td> </tr> <tr> <td>社会発展公共政策学院</td> <td></td> </tr> <tr> <td>数学科学学院</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンピュータサイエンス学院</td> <td></td> </tr> </table>				学院(学部)	研究所	人文学院	中国語文学研究所	外文学院	中国社会主义市场经济研究中心	新聞学院	アメリカ問題研究中心	法学院	日本研究中心	经济学院	歴史地理研究所	管理学院	人口研究所	技術科学工程学院	世界経済研究所	生命科学学院	金融研究所	上海医学院	数学研究所	公共衛生学院	現代物理研究所	薬学院	遺伝学研究所	看護学院	上海市心臓血管病研究所	情報科学工程学院	上海市放射医学研究所	国際関係公共行政学院	肝臓ガン研究所	社会発展公共政策学院		数学科学学院		コンピュータサイエンス学院	
学院(学部)	研究所																																							
人文学院	中国語文学研究所																																							
外文学院	中国社会主义市场经济研究中心																																							
新聞学院	アメリカ問題研究中心																																							
法学院	日本研究中心																																							
经济学院	歴史地理研究所																																							
管理学院	人口研究所																																							
技術科学工程学院	世界経済研究所																																							
生命科学学院	金融研究所																																							
上海医学院	数学研究所																																							
公共衛生学院	現代物理研究所																																							
薬学院	遺伝学研究所																																							
看護学院	上海市心臓血管病研究所																																							
情報科学工程学院	上海市放射医学研究所																																							
国際関係公共行政学院	肝臓ガン研究所																																							
社会発展公共政策学院																																								
数学科学学院																																								
コンピュータサイエンス学院																																								
学 生 数	総数	36,223人	学 部 生 数	13,991人	大学院生数	22,232人																																		
受け入れている留学生数	2946	日本からの留学生数	N/A																																					
海外への派遣学生数	N/A	日本への派遣学生数	N/A																																					
Webサイト(URL)	https://www.fudan.edu.cn/en/																																							

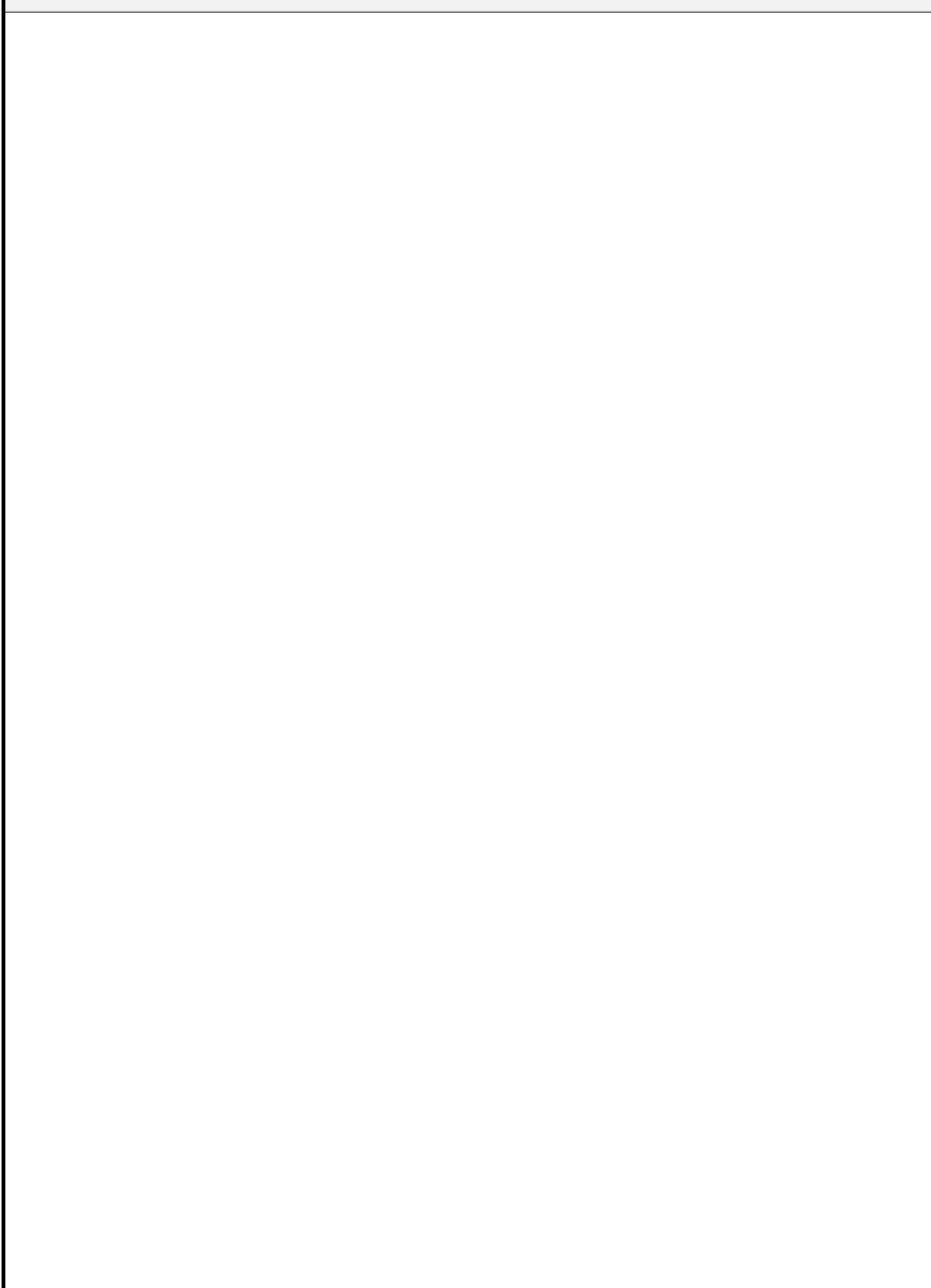
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

IAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)で確認済み。
https://whed.net/results_institutions.php



(大学名 : 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

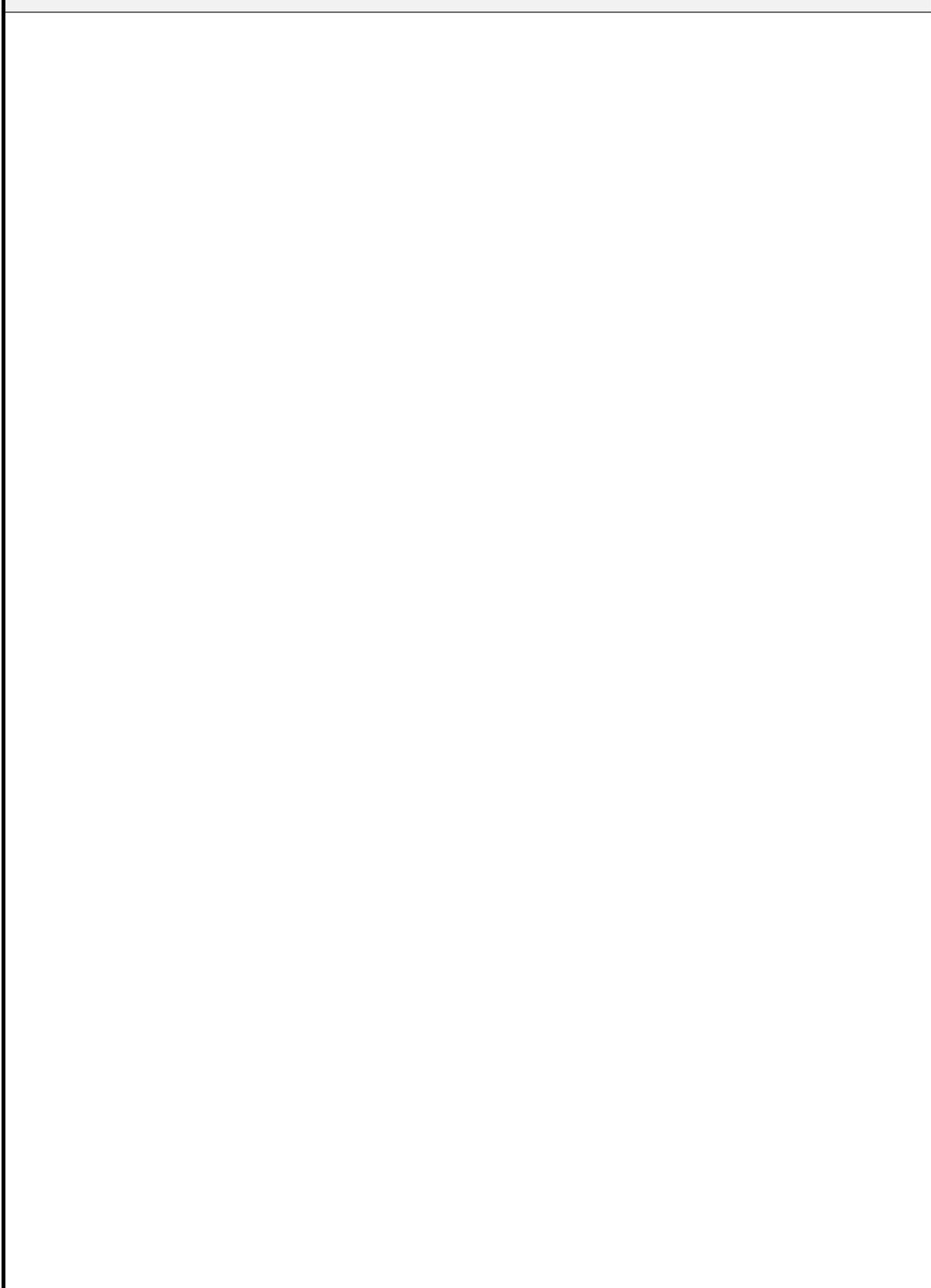


(大学名：神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

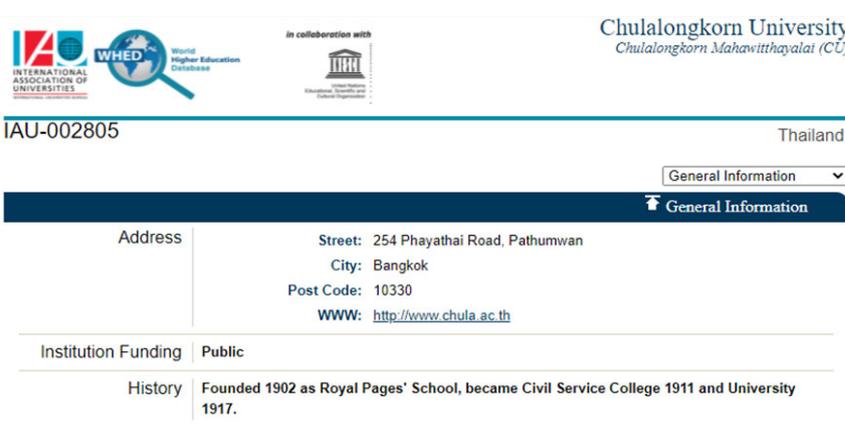
海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】						
①交流プログラムを実施する相手大学の概要						
大 学 名 称	(日)高麗大学校 (英) Korea University	国 名	大韓民国			
設 置 形 態	私立	設 置 年	1946			
設 置 者 (学 長 等)	金性洙					
学 部 等 の 構 成	大学 経営大学 文科大学 生命科学大学 政経大学 理科大学 工科大学 医科大学 師範大学 看護大学 保健科学大学 デザイン造形学部 国際学部 メディア学部 自由専攻学部 情報大学 情報保護学部 科学技術大学 薬学大学 グローバルビジネス大学 公共政策大学 文化スポーツ大学	大学院 国際大学院 情報保護大学院 経営専門大学院 法学専門大学院 エネルギー環境政策技術大学院 融合ソフトウェア専門大学院 KU-KIST融合大学院 教育大学院 生命環境科学大学院 政策大学院 工学大学院 言論大学院 労働大学院 法務大学院 コンピューター情報通信大学院 保健大学院 臨床歯医学大学院 経営情報大学院 文化スポーツ大学院 行政専門大学院 医用科学大学院				
学 生 数	総数	36,676人	学部生数	27,209人	大学院生数	9,467人
受け入れている留学生数	3135 (院生含まず)	日本からの留学生数	124 (院生含まず)			
海外への派遣学生数	1067 (院生含まず)	日本への派遣学生数	79 (院生含まず)			
Webサイト (URL)	http://www.korea.edu/mbshome/mbs/en/index.do					
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。						
IAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)で確認済み。 https://whed.net/results_institutions.php						

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。



(大学名：神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】																										
①交流プログラムを実施する相手大学の概要																										
大 学 名 称	(日) チュラロンコン大学 (英) Chulalongkorn		国 名	タイ王国																						
設 置 形 態	国立	設 置 年	1917																							
設 置 者 (学 長 等)	ワチラーウット王 (ラーマ6世)																									
学 部 等 の 構 成	<table border="0"> <tr> <td>保健科学</td> <td>医学</td> </tr> <tr> <td>建築</td> <td>看護学</td> </tr> <tr> <td>芸術</td> <td>薬学</td> </tr> <tr> <td>商学・会計</td> <td>政治学</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションアート</td> <td>心理学</td> </tr> <tr> <td>歯学</td> <td>理学</td> </tr> <tr> <td>経済学</td> <td>スポーツ科学</td> </tr> <tr> <td>教育</td> <td>獣医学</td> </tr> <tr> <td>工学</td> <td>総合イノベーション</td> </tr> <tr> <td>工芸造形美術</td> <td>農業資源</td> </tr> <tr> <td>法学</td> <td>大学院</td> </tr> </table>				保健科学	医学	建築	看護学	芸術	薬学	商学・会計	政治学	コミュニケーションアート	心理学	歯学	理学	経済学	スポーツ科学	教育	獣医学	工学	総合イノベーション	工芸造形美術	農業資源	法学	大学院
保健科学	医学																									
建築	看護学																									
芸術	薬学																									
商学・会計	政治学																									
コミュニケーションアート	心理学																									
歯学	理学																									
経済学	スポーツ科学																									
教育	獣医学																									
工学	総合イノベーション																									
工芸造形美術	農業資源																									
法学	大学院																									
学 生 数	総数	37,626人	学 部 生 数	26,202人	大学院生数	9,231人																				
受け入れている留学生数	4,643	日本からの留学生数	1 (神戸大学との数値のみ)																							
海外への派遣学生数	3,378	日本への派遣学生数	0 (神戸大学との数値のみ)																							
Webサイト (URL)	https://chula.ac.th/en/																									
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。																										
IAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)で確認済み。 https://whed.net/results_institutions.php																										
 <p>The screenshot shows the WHED profile for Chulalongkorn University (CU). It includes the university's name in Thai and English, its IAU ID (IAU-002805), and its location in Thailand. The 'General Information' section lists the address as 254 Phayathai Road, Pathumwan, Bangkok, with a post code of 10330 and the website URL http://www.chula.ac.th. The 'Institution Funding' is listed as Public. The 'History' section states that the university was founded in 1902 as Royal Pages' School, became Civil Service College in 1911, and University in 1917.</p>																										

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。



(大学名：神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】						
①交流プログラムを実施する相手大学の概要						
大 学 名 称	(日) ラオス国立大学		国 名			
	(英) National University of Laos					
設 置 形 態	国立	設 置 年	1996			
設 置 者 (学 長 等)	Oudom Phonekhampheng (現学長)					
学 部 等 の 構 成	理学部 工学部 経済経営学部 文学部 教育学部 建築学部 農学部 森林学部 法学部 社会学部 医学部					
学 生 数	総数	4,045人	学部生数	3,714人	大学院生数	331人
受け入れている留学生数	99	日本からの留学生数	0			
海外への派遣学生数	43	日本への派遣学生数	8人			
Webサイト(URL)	https://nuol.edu.la/					
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。						
IAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)で確認済み。 https://whed.net/results_institutions.php						

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。



(大学名：神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	神戸大学		
①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019年5月1日現在）及び各出身国（地域）別の2019年度の留学生受入人数			
※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。 ※「2019年度受入人数」は、2019年4月1日～2020年3月31日の出身国（地域）別受入人数を記入。 ※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2019年5月1日現在の在籍者数を記入。			
順位	出身国（地域）	受入総数	2019年度受入人数
1	中国	784	945
2	韓国	104	122
3	インドネシア	61	80
4	台湾	43	57
5	フランス	31	52
6	ベトナム	27	36
7	バングラデシュ	23	26
8	マレーシア	23	25
9	タイ	17	18
10	ドイツ（イタリアも同数）	17	48
その他 （上記10カ国以外）	（主な国名） イタリア	269	408
留学生の受入人数の合計		1399	1817
全学生数		16226	/
留学生比率		8.6%	
②2019年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数			
※教育又は研究等を目的として、2019年度中（2019年4月1日から2020年3月31日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。 なお、2019年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。			
順位	派遣先大学の所在国（地域）	派遣先大学名	2019年度派遣人数
1	インドネシア	ハサヌディン大学	36
2	フィリピン	フィリピン大学ロスバノス校	35
3	台湾	国立台湾大学	29
4	米国	ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジ	28
5	英国	クランフィールド大学	23
6	インドネシア	ガジャマダ大学	19
7	オーストラリア	ウェスタン・シドニー大学	18
8	オーストラリア	クイーンズランド大学	17
9	フランス	パリ大学(パリ・デイドロ大学)	17
10	オーストラリア	西オーストラリア大学	16
その他 （上記10カ国以外）	（主な国名） 米国	（主な大学名） ワシントン大学	552
	計 43 カ国	計 242 校	
派遣先大学合計校数		252	/
派遣人数の合計		790	

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	神戸大学						
③大学等全体における外国人教員数（兼務者を含む）（2020年5月1日現在）							
<p>※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。</p> <p>※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数それぞれ記入。（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）</p>							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
2164	25	15	30	16	5	91	4%
うち専任教員 （本務者）数	25	15	9	16	5	70	

（大学名： 神戸大学 ）（タイプ A①:CAプラス ）

大学等名	神戸大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
<p>○英語による授業の実施</p> <p>英語教育について、学生が将来の目標に応じて英語学修をよりよく行えるよう、平成29年度から全学共通教育及び専門教育における英語教育を階層化・体系化して、「神戸大学の英語教育（アカデミック・イングリッシュを学ぶ）」として明示するとともに、グローバル人材育成のための英語能力向上方策の一つとして、新入生を対象とした英語プレースメント試験（英語外部試験）を義務化した。この試験の結果に基づき、単位授与制度を導入するとともに、英語学修に積極的関心を持つ成績上位の学生を対象に、より高度な英語運用能力の向上を目指し、必修科目の中に英語特別クラスを設け、原則ネイティブスピーカーの教員が担当する1クラス25名程度の少人数クラスでより高度なレベルの指導を行った。</p> <p>平成31(令和元)年度からは、学士課程における4年一貫の英語教育の体系化に向け、全学共通授業科目の英語必修科目を4単位化し、各学部が開講する「専門分野を英語で学ぶ科目」を整備した。</p> <p>英語そのものを習得する授業のほか、外国語による授業も、平成28年度7.5%、平成29年度8.5%、平成30年度9.3%、平成31(令和元)年度9.3%、令和2年度9.7%と年々充実させ、各学部・研究科において国際性及び実践性を強化する教育を展開した。</p> <p>また、英語によるプログラムの例を以下のとおり挙げる。</p> <p>【理学研究科】平成30年度に英語の授業・研究指導のみで修了できる「理学英語コース」を設置した。</p> <p>【保健学研究科】平成24年度に英語による授業科目の履修のみで学位取得が可能な「ICHS（International Course of Health Sciences）」を開始した。</p> <p>【システム情報学研究科】授業科目に英語カテゴリーを導入し、全ての科目をカテゴリーA（すべて英語による授業）ないしカテゴリーB（板書や資料は英語で提供）で実施することを原則としている。</p> <p>【法学研究科】「GMAP in Lawプログラム」では、全ての授業を英語で行っている。</p> <p>【経済学研究科】「Global Master Program (GMAP) コース」と「国際コース」を設置し、すべての講義を英語で行う授業を多数開講し、海外大学の教員による授業や指導を取り入れている。</p> <p>【医学研究科】英語による授業科目のみで学位取得が可能な「医学研究国際プログラム」を設置している。</p> <p>https://www.kobe-u.ac.jp/documents/NEWS/info/student/gaibushiken_2021.pdf</p> <p>https://www.kobe-u.ac.jp/documents/info/project/evaluation/2019-achievements-report.pdf</p> <p>https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/international.html</p> <p>http://www.sci.kobe-u.ac.jp/introduction/message.htm</p> <p>http://www.ams.kobe-u.ac.jp/ICHS/</p> <p>http://www.law.kobe-u.ac.jp/GMAP/</p> <p>http://www.econ.kobe-u.ac.jp/admissions/gmap.html</p> <p>○留学生との交流</p> <p>本学学生を神戸大学で受け入れる留学生のチューターとして雇用し、大学生活を支援すると同時に学生相互の国際交流を図っている。また、海外の学生を短期で受け入れるサマースクールなどで本学学生と交流する機会を設けている。具体例として、以下のような取り組みを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際人間科学部では、チューターが学生交流スペースである「IC Café」で様々な交流企画を実施し、チューターだけでなく全学部生が参加できる国際交流活動を行っている。 ・工学部では、平成30年度からサマープログラムを開始し、平成31(令和元)年度にはフランス、ドイツ、韓国、中国、台湾など多くの国から学生を受け入れ、工学部の学生にも参加させることにより、学生同士の国際交流の場となった。 ・国際教育総合センターでは、平成31(令和元)年度に、ジョージア工科大学、南カリフォルニア大学から学生と教員を受け入れ、それぞれキャンパスツアーやパーティーで本学学生や教員と交流を図った。ジョージア工科大学のプログラムでは、ジョージア工科大学学生と本学学生が合同でジョージア工科大学の教員による英語のみで行われる授業を受講したり、フィールドワークを行ったり、国際交流のみならず、本学学生にとっても海外の授業に直接触れることができる有益なものとなった。 <p>https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2019_08_22_01.html</p>	

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CA プラス)

大学等名	神戸大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
<p>○海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発</p> <p>本学では、海外で学位取得を目指すダブル・ディグリー・プログラムについて、平成28年度から平成31年度に6大学9コースのプログラムを令和2年度には3大学3コースのプログラムを新たに締結し、平成28年度18コース、平成29年度21コース、平成30年度21コース、平成31（令和元）年度22コースを実施した。</p> <p>中でも特色のあるプログラムとして、経済学部では、平成28年度から武漢大学・貿易大学（ベトナム）・ルーヴァンカトリック大学（平成29年度より）との間で、「第3年次編入学ダブルディグリー協定」を締結し、学部ダブルディグリー・プログラムを展開している。また、国際人間科学部、国際文化学部・研究科、法学部・研究科、経済学部・研究科の学生がEUに関して多面的かつ体系的に学ぶ学位プログラム「EUエキスパートプログラム（KUPES）」（平成26年度開始）は、学部2年生から博士前期課程までの一貫したカリキュラムを提供し、EU圏の大学への交換留学とダブルディグリーの取得によって、学際的視野を拡張することを目指している。国際協力研究科においては、大学の世界展開力強化事業の採択を受け、パイロットプログラムの実績を経て第2モードにおいて、派遣した学生14名、受入れた学生16名がダブルディグリーを取得し、着実に実績を伸ばしてきた。</p> <p>https://www.kobe-u.ac.jp/documents/international/office-affiliated/affiliated/mou_list20201101.pdf http://www.office.kobe-u.ac.jp/intl-prg/eup/about/overview.html http://kobeucpasia.wp.xdomain.jp/</p> <p>○外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による国際化への対応のための教員の資質向上（国際公募、年俸制、テニュアトラック制等の実施・導入を含む。）</p> <p>本学では、国際公募等により外国人教員に加え、国外の大学での学位取得、通算1年以上教育研究に従事した日本人教員の採用を積極的に行っており、総教員数に対する外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の割合は高くなっている。ほかにも、外国人研究者の採用を促進するために、特定部局に限定していた外国人研究員制度（学術研究の国際交流活性化等を目的に、外国人研究員の招聘に係る経費の一部を支援する制度）を、令和元年度から全学を対象とする制度に拡充したことにより、平成30年度12名から令和元年度40名へと大幅に受け入れが増えた。さらに、受入環境の拡充（宿舍の新営等）に向けてWG等で検討を進めている。</p> <p>また、次世代を担う優れた若手研究者養成の一環として、平成21年度から実施してきた若手教員長期海外派遣制度を継続して実施し、平成28年度10名、平成29年度15名、平成30年度12名、令和元年度5名、令和2年度3名を新規に派遣し、グローバルな人材の育成を図っている。若手教員海外派遣で海外経験をした教員の中には、帰国後、文部科学大臣表彰若手研究者賞や日本学術振興会賞を受賞した教員やTop10%論文に名を連ねる教員がいる。さらには、帰国後、95%以上の教員が科研費に採択されており、基盤(A)に採択された者も出ている。</p> <p>FDについては、平成29年度から、「学生の授業外学修時間を増加させるための工夫」や「英語による授業の質を高めるための工夫」などの内容のFDを重点的に実施し、令和2年度においては、COVID-19の影響もあるが、様々な場所から授業を受講できるよう「遠隔授業実施のためのスキルを身につける」ためのFDを充実させたことから、FD活動への本学教員の年間延べ参加者数は、令和元年度までは4,000名以上の参加者であったが、令和2年度は5,000名以上に上り、学部生の授業外学修時間の増加、外国語による授業科目の割合の増加、国際通用力を強化したプログラムの充実などに繋がった。</p> <p>年俸制については、教員の流動性を高めるため、新たな年俸制適用教員制度を導入し、新規採用教員への原則適用を開始した。在職教員への募集を行うとともに、役職者や60歳以上のシニア教員へ切替の協力を依頼するなど注力した結果、旧年俸制適用教員数と併せて延べ338名となった。</p> <p>テニュアトラック制度については、平成27年度に本学独自の「神戸大学テニュアトラックプログラム」として制度を開始しており、平成28年度8名、平成29年度7名、平成30年度3名、令和元年度6名、令和2年度2名の若手教員を採用した。テニュアトラック教員については、メンター教員、URA等による支援のもと、外部資金の獲得についても順調に進めており、平成27年度採用者7名のうち4名、平成28年度採用者8名のうち2名、平成29年度採用者のうち1名が、科研費の応募資格を得て以降、初めて科研費の採択を受けている。また、平成28年度に採用されたテニュアトラック教員のうち1名は、平成31（令和元）年度に本学の「優秀若手研究者賞」を受賞している。このほか、テニュアトラック期間中に研究実績を積み、他大学のテニュアポストを得て転出する者もあり、着実に優秀な若手研究者の育成を進めている。令和3年度からは、新たなテニュアトラック制度の全学方針を策定し、各学域にて規程等整備し各々に制度運用を開始している。</p> <p>https://www.kobe-u.ac.jp/documents/info/outline/datashiryoushuu/2020/datashiryoushuu_2020.pdf https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/organization/ltovp_r2.html http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/fd_katsudo.html#4</p>	

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	神戸大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
<p>○英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラム等、事務体制の国際化 国際関係対応能力を強化するため、平成17年度から事務職員対象の国際業務研修を実施している。研修内容の見直しは随時行い、事務職員の国際化に資する内容になるよう改善を行っており、本学国際業務研修受講者の中から優秀な者を選抜し海外研修を行う等、事務体制の国際化整備を行っている。なお、新型コロナウイルス感染拡大の状況により、令和2年度は研修の実施を見送り、令和3年度実施のために内容を検討中である。</p> <p>○厳格な成績管理 大学教育推進機構において、「神戸大学における成績評価方針」を策定し、平成28年度前期から各学部の成績分布による成績評価（秀の割合）の点検を実施した。「秀」の割合が比較的多い学部については、原因を調査の上、今後の成績評価方法の改善に向け取り組むよう指示した結果、平成30年度には全ての開講部局の成績分布において「秀」の割合が10%程度にまで改善された。引き続き、各部局において秀の比率の多い科目などの点検・改善を進めるよう指示するとともに、平成30年度に成績評価方針の一部を見直し、各部局における「秀」と「優」の合計比率を履修者の概ね40%程度を上限とすることを目安として定め、部局全体の秀と優の合計比率について各部局で確認することとし、学生に対して明示した。</p> <p>○学生が履修可能な上限単位数の設定 単位の実質化、質を保証するため、履修科目の登録上限を設定すること（キャップ制）を規則で定め、履修登録上限単位数をそれぞれの学部の特性に応じて、適切に設定している。</p> <p>○明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化等、単位の実質化 本学では、「学位授与に関する方針」に掲げる国際的に卓越した教育を保証し、「単位の実質化」を進めるため、平成24年度入学生から「GPA (Grade Point Average)」を通知している。 平成30年度には新たに「教育の内部質保証に関する自己点検の実施に関する内規」を策定し、平成31(令和元)年度に、「内部質保証の体制と手順に関する点検リスト」に基づき自己点検を全教育課程単位で実施し、全学的に点検項目を概ね満たしていることが確認できた。なお、自己点検を行う過程において、シラバスの一部において記載が十分でない項目があったことから、令和2年度のシラバス作成に向けて全学教務委員会が「シラバスの入力項目及び記載例（日本語版・英語版）」を作成し、改善を進めた。 また、各学部及び研究科における教育課程の系統性、順次性及び科目の水準を明らかにし、学生の履修計画、学修活動の手助けとなるように、平成28年度の入学者対象のカリキュラムから、科目ナンバリングを導入し、シラバスにも記載している。 学修課程の管理においては、教務情報システムに加えて、①学修支援システム「BEEF」、②「神戸スタンダード」の達成度を自己点検するためのチェックリスト、③「ポートフォリオフォルダ」によって構成する学修ポートフォリオを構築し、学びのアウトプットの蓄積を推進することで、学生の学修支援に活用している。学修支援システム「BEEF」（平成27年度導入）について、平成28年度にBEEFと教務情報システムを自動で連携する機能を追加し、学生がBEEF活用により授業開始前から主体的に事前学習ができるよう改善するとともに、学生の学修成果を測るために全学部生の学修時間等を調査する機能を教務情報システムに導入し「学修の記録」を開始した。平成29年度には前年度の「学修の記録」の集計結果をもとに、学生の能動的・自主的かつ質を伴った学修を増やすために、各学部への指導や全学FDなどを通じて、各学部において、BEEFを利用した科目数を増加させ、BEEFの利用を促進した。BEEFを利用した授業の科目数は、平成29年度には1,342科目（対前年度比139.6%）と大幅に増加し、学部生の授業外学修時間についても7.6時間/週と前年度より4.1%増加（平成28年度7.3時間/週）となった。平成30年度～平成31（令和元）年度にかけては、授業の双方向性を高め、学生の能動的かつ質を伴った学修を引き出すための「BEEF活用セミナー」を教員に向けて実施するなど、引き続き学部生の授業外学修時間増加に向けて取り組んだ結果、平成30年度は9.5時間/週、令和元年度は9.7時間/週と順調に増加しており、令和2年度は、COVID-19の影響により、ほとんどの授業がオンラインに切り替わったこともありBEEFの活用が促進されたため、学生の授業外学修時間も13.0時間/週と大幅な増加につながった。</p>	

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	神戸大学		
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】			
大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果			
整理番号	49	大学等名	神戸大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		
（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）			
【総括評価】			
A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。			
【コメント】			
<p>大学改革の加速については、学生が身に付けるべき能力として定めた「神戸スタンダード」の養成のために、「ナンバリングとクォーター制の導入」「『初年次セミナー』の導入」「教養教育の重視」及び「学修環境の充実」の4つの取組で教育改革が推進されている。特に、「ナンバリングとクォーター制の導入」は全学的な教育課程の変更であり、学生の履修計画・学修活動の支援、授業の短期集中化及び「チャレンジターム」の設定は、学生の学外学修参加及び授業外学修時間の増加という成果を上げている。また、教養科目を見直し、「基礎教養科目」及び「総合教養科目」の設定により教養教育を充実させたことも評価に値する。</p> <p>事業の具体的な取組の進捗状況については、本事業への学生の参加費用は原則自費で行うこととなっているが、奨学金や助成金による支援に加えて、国内外の同窓会の協力が得られ、経済面でのサポート体制が構築されていることは評価できる。また、学生が作成・提出する「チャレンジシート」と「リフレクションシート」のセットにより学生に求める3つの力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の自己評価が可能となっており、これは学生の自主的成長の記録となっていることは評価できる。</p> <p>事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、当該大学の教学マネジメントを行う大学教育推進機構の下に「神戸グローバルチャレンジプログラム委員会」を設置し、学長を中心とした体制の整備が行われてきたことに加え、この実施体制が補助期間終了後も維持され、継続して本事業を実施することが全学で承認されていることは評価できる。また、補助期間終了後も本事業をより充実した取組とするため令和元年度に行われた全学部との意見交換では、課題の共有や連携体制の確認がなされただけでなく、本事業の取組・成果の全学部への周知徹底にもつながっており、事業継続への大きな成果をもたらした。一方で、渡航費については学生自らが負担することが原則であり、補助期間終了後もより多くの学生が参加できるように引き続き神戸大学基金からの助成、後援会・同窓会組織からの援助を受ける予定であるとのことだが、様々な背景を持った学生に配慮し、学生の負担を少しでも軽減できるよう、工夫を重ねていくことが期待される。</p> <p>事業成果の普及については、プログラム参加学生の活動成果報告会として実施している「神戸グローバルチャレンジプログラムフェア」という参加学生同士のネットワークの構築や学外学修活動成果の共有により、今後の学修への刺激やモチベーションの獲得、さらには学内への成果の波及とプログラム周知等、多くの効果的な結果を得ることのできる仕組みとなっていることは評価できる。</p>			

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	神戸大学		
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】			
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) 事後評価結果			
整理番号	23	COC+大学名	神戸大学
事業名	地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム		
<p>(「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価)</p> <p>【総括評価】</p> <p>A:計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p> <p>【コメント】</p> <p>1. 事業の実施計画及び目標については、「事業協働地域就職率」が目標値を達成できていないものの、その他の「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」「事業協働機関からの寄附講座数」「事業協働機関雇用創出数」等については良好な達成状況にあることから、本事業は着実に進捗したと言える。特に、教育プログラムの全学実施を計画より1年前倒しで達成し、COC+大学全体で254科目を地域志向科目に指定してカリキュラム整備を図るなど、中間評価及びフォローアップにおける指摘に真摯に対応し、計画の軌道修正を行いながら着実に実施されてきたことは高く評価できる。</p> <p>2. 事業協働機関との連携・協働については、「ひょうご神戸プラットフォーム協議会」やコーディネーターミーティング、関係機関へのヒアリングを実施し、日常的に事業協働地域の課題やニーズの把握に努めるだけでなく、同地域の自治体・企業・大学と連携して「IT×アイデアソン」や「Mラボ課題解決ラボ」等の多様な取組につなげている。また、「統括コーディネーター」を筆頭とするCOC+推進コーディネーター体制が整備され、事業全体の進捗状況や地域課題の共有を行っていることも評価できる。</p> <p>3. 地方創生に必要なCOC+大学の教育カリキュラムの構築・実施については、地域が求める人材像と修得すべき能力を6点に整理した上で、地域理解基礎科目及び地域理解専門科目(合計254科目)と課外活動から構成される「地域の元気づくり教育プログラム」が編成されている。そこでは、事業協働地域における自治体、地元企業、地域住民との連携を通して学生が主体的に学修できる環境を整備し、アクティブ・ラーニングを展開するなど、正課内外の学びが可能な体制になっている。また、教育プログラムに対応する初学者向けのテキスト「地域づくりの基礎知識」シリーズ5冊の作成・刊行を計画通りに完了し、それらを教科書等として活用することで学修効果を高めていることは評価できる。</p> <p>4. 事業の実施体制及び継続発展・成果普及については、学長のリーダーシップの下、社会連携担当理事(後に組織連携担当理事)を本部長とする「COC+事業本部」を設置するとともに、「COC+推進委員会」が事業計画や予算配分等を通して全学的な視点から事業の方向性を決定する体制が構築された。これを踏まえ、補助期間終了後は、地域連携推進室内に事業本部を設置し、COC+大学の自己資金により特命准教授を置くとともに、「ひょうご神戸プラットフォーム協議会」を通して事業協働機関とも協力して事業を継続的に行う体制を構築しており、令和元年9月には、事業協働機関間でプラットフォーム維持に関する合意が得られていることから、継続的かつ発展的な事業の実施が十分見込める。これに加え、自治体や企業からの人的・物的資源に係るコストシェア協力体制を構築し、さらには自治体の共同研究・補助金の獲得に努めていることも高く評価できる。</p>			
1			

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	神戸大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
<p>超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業 中間評価結果</p>	
代表校名	大阪大学
取組名称	独り立ちデータサイエンティスト人材育成プログラム (DS ²)
<p>超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業委員会による評価</p>	
<p>【総括評価】</p> <p>B：当初目的を達成するためには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。</p>	
<p>【コメント】</p> <p>社会人も含めた多様なニーズに応えるため、7コースからなるDSデータ科学を開講し、DSインターンシップ、実証型研究法、データ科学PBL（合宿形式）、データ科学各論（実務家講義）、数理解論（グループワーク、ディスカッション）など多様な形式で実践型の教育プログラムが実施されていることは評価できる。</p> <p>一方、自己評価やアドバイザーボードを設置しているにも関わらず、問題点の原因を究明し、できる限りの工夫を凝らした上でそれを克服あるいは改善に繋げようとする方策が確認できなかった。現状のままでは、当初計画した事業内容の達成は難しく、より一層オンラインをうまく活用するなど、教育機会の提供を増やす取組が求められる。特に、社会人受講者が少なく、受け入れ企業とも協働・協力し、受講者を増やすための改定策を講じる必要がある。</p> <p>また、企業間でインターンシップの内容に差があるため、アドバイザーボードにおいて、例えば、インターンシップに関する情報交換や、学生からの意見の紹介などを通じて、内容の平準化と質の向上を検討することや、教員養成、他大学へのプログラム展開について、事業の中核拠点として、具体的に取組みを進めることが期待される。</p> <p>以上を踏まえ、他大学や学内の他部署の教員・事務局とも連携し、事業の更なる推進を図ること。</p>	

(大学名： 神戸大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	神戸大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>【大学改革推進等補助金】</p> <p>●課題解決型高度医療人材養成プログラム「実践的病院経営マネジメント人材養成プラン」 働きながら、プロジェクト方式で、研究に基礎をおく教育を提供する神戸大学MBAと医学部附属病院がタッグを組んで開発、提供する。大学病院のみならず地域の医療機関での勤務経験を持つ社会人、並びに自治体・公的機関における医療行政担当者を対象に、国内最高評価を得ているMBAプログラムの特徴をも活かした実践的なプログラムを開発し、実践的マネジメント能力の向上を目指すものである。</p> <p>●デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン「LMSの高度化と学修データ統合システムによる学修者本位の教育の実現」 LMSの高度化とハイブリッド授業による教育の質の向上・保証、学修データ統合による教育の個別化・高度化に取り組む。</p> <p>●デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン「デジタル化ブレンド型教育による課題設定・解決型人材育成」 「LMSの高度化とハイブリッド授業による教育の質の向上・保証」、「臨場感のあるオンライン実習・実験の開発」、「ブレンド型教育の体系化」の3つの課題に取り組むことで、with/afterコロナ禍においても高度な課題解決型授業を提供できる環境・手法を整備する。</p> <p>【国立大学改革強化推進補助金】</p> <p>●国立大学経営改革促進事業「社会変革を先導する大学への経営改革～「知」「人材」「資金」が循環するイノベーション・エコシステムの形成を目指して～」 現代及び未来社会の課題の解決に資する新たな価値を創造するため、学長リーダーシップをさらに強化するガバナンス改革と、イノベーションの連鎖を創出する「研究・教育・社会実装」の三位一体改革を実施し、大学と社会との間で「知」「人材」「資金」を循環させるイノベーション指向研究大学に向けた経営を実現する。</p> <p>【研究拠点形成費等補助金】</p> <p>●多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」（近畿大学からの分担金） 近畿圏の国公立7大学9学部が相互連携し、多様化する新ニーズに対応した個別化医療を実践できるがん専門医療人の養成を推進する。ゲノム・サイエンス、教育イノベーション、マルチパートナーシップ・アライアンスの3つのタスクフォース（TF）を立ち上げ、各タスクフォースが有機的に連携することにより、患者中心の個別化医療を実践できるがん専門医療人を養成する。</p> <p>【日本学術振興会国際交流事業】</p> <p>●日本学術振興会二国間交流事業 個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チーム等の持続的ネットワーク形成を目指し、相手国の研究者と協力して共同研究・セミナーを実施しており、令和3年度は英国、フランス、ドイツ、ハンガリー、南アフリカ、ブラジル、ニュージーランド、クロアチア、インド、フィリピン、インドネシア、韓国の12カ国と計18件の事業に取り組んでいる。</p> <p>●日本学術振興会研究拠点形成事業（A. 先端拠点形成型） 日本と交流相手国の拠点機関同士の協力関係に基づく双方向交流として、「共同研究」、「セミナー」、「研究者交流」を効果的に組み合わせて実施し、令和3年度は英国、ドイツ、デンマーク、米国、カナダの5カ国との共同事業1件、フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、タイ、ベトナム、韓国、台湾の8カ国との共同事業1件の計2件に取り組んでいる。</p>	

（大学名： 神戸大学 ）（タイプ A①:CA プラス ）

大学等名	神戸大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
【日本学生支援機構令和3年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）】	
令和3年度は以下のプログラムが採択されている。	
<ul style="list-style-type: none"> ●双方向協定型9件 	
<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム※1 ・SDGsに取り組むネットワーク形成に寄与する双方向型留学プログラム ・グローバル・ビジネスリーダー養成のための学習集中型交換留学プログラム ・地球的諸課題の解決を目指す先導的高度人材育成のための神戸大学全学交換留学プログラム ・法学政治学系グローバルエリート養成プログラム（「神戸GEEPLS」） ・経済学の専門性を活かす高度グローバル人材育成のための世界トップレベル大学との国際協働交換留学プログラム ・先端技術と国際性で新たな社会を牽引するエンジニア育成プログラム ・多文化共生の地域コミュニティ形成に資する人材養成のための双方向型留学プログラム ・グローバル・ビジネスリーダー養成のための交換留学プログラム 	
<ul style="list-style-type: none"> ●短期研修・研究型（協定派遣）6件 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「協働型グローバル人材」を養成する短期海外フィールド学修プログラム ・神戸大学グローバル医療人材育成プログラム（短期派遣） ・国際協力人材育成プログラム：「国際協力の最前線」で学ぶ※2 ・ユネスコチェア事業によるジェンダーに配慮したグローバル減災教育プログラム ・神戸グローバルチャレンジプログラム ・多文化共生の地域コミュニティの形成を促進する専門的人材養成プログラム 	
<ul style="list-style-type: none"> ●短期研修・研究型（協定受入）3件 	
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸オックスフォード日本学プログラム（KOJSP） ・神戸大学ポストコロナ時代のグローバル医療人材育成プログラム ・東アジアを中心とした海事系大学交換留学生のための多様な海洋人材育成プログラム 	
※1 第3モードのキャンパス・アジア事業を継続的に実施するためのプログラムである。	
※2 今回の申請の主担当研究科のプログラムであるが、本申請との直接的な関連はない。	

（大学名： 神戸大学 ）（タイプ A①:CAプラス ）